雪印メグミルクグループ

活動報告書
2011

～雪印メグミルクグループ
CSRの確立に向けて～

未来は、ミルクの中にある。

2011年4月1日、雪印メグミルク株式会社は
日本ミルクコミュニティ株式会社および雪印乳業株式会社と合併し、
総合乳業メーカーとして新たにスタートしました。

雪印メグミルクグループは、新しく定めた企業理念の通り
ミルクにこだわり、丁寧に向き合い、その可能性を信じ
新しい価値を創造していくことで社会に貢献する企業であり続けます。
その強い思いを込めて「未来は、ミルクの中にある。」という
コーポレートスローガンを掲げました。

［合併までの変遷］

雪印乳業株式会社　日本ミルクコミュニティ株式会社

2009年10月

2009年10月に雪印乳業株式会社と日本ミルクコミュニティ株式会社は経営統合し、共同持株会社である雪印メグミルク株式会社を設立しました。

雪印メグミルク株式会社

［100%子会社］ 雪印乳業株式会社

［100%子会社］ 日本ミルクコミュニティ株式会社

そして、2011年4月

雪印メグミルク株式会社

○ 編集方針

本報告書は、消費者・従業員をはじめとする全てのステークホルダーに雪印メグミルクグループの活動をご理解いただくことを目的とし、雪印メグミルクグループが2010年度（2010年4月から2011年3月まで）に取り組んだ幅広いテーマについて総括するとともに（一部、2011年4月以降の取り組みについてもお伝えしたい記事を掲載。）、合併後の雪印メグミルクグループの目指すべき方向性についても掲載しています。

活動報告記事（P27~P48）では、従業員の意欲を「私のチャレンジ!」として紹介しています。

1.わかりやすい構成・表現を心がけました

（1）雪印メグミルクグループはCSR経営を掲げており、その内容をCSRマネジメントとしてまとめて記載しました。

（2）本文は平易な文章表現を心がけ、さらに説明が必要と思われる内容については詳細説明として記載しました。

2.社外の声を反映して制作しました

（1）制作段階で企業倫理委員会と、その専門部会である消費者部会、また活動報告書2010アンケートでのご意見の内容を反映しました。

（2）ステークホルダーの方々より雪印メグミルクグループの取り組みをご評価いただくとともに、今後の方向性もご示唆いただきました。

3.お客様・消費者の併記について

雪印メグミルクグループでは、雪印乳業食中毒事件（P51）の反省を踏まえて、消費者が持つ基本的な権利を尊重することを認識し、単に「お客様」だけではなく、「消費者」全体を重視する経営を進めています。

そこで消費者の中に「お客様」を位置付けた上で、「お客様」と「消費者」の2つの概念を併記して表現しています。

なお、消費者基本法では消費者の8つの権利を尊重し、消費者の自立を支援すること、事業者としての5つの責務を果たすことなどが基本とされています。お客様もこの「消費者」の中に含まれると考えています。

おことわり

本報告書には、雪印メグミルクグループの過去と現在の事実だけでなく、発行日時点における計画や見通し、経営方針・経営戦略に基づいた将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸与件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご了解いただきますようお願いいたします。

※CSR：Corporate Social Responsibility
（一般的に「企業の社会的責任」と訳されます。）

目　次

編集方針 …… 2
トップメッセージ …… 3
雪印メグミルクグループ東日本大震災に関するご報告 …… 5

雪印メグミルクグループ企業理念
雪印メグミルクグループ企業理念 …… 7
コーポレートスローガン …… 9
雪印メグミルクグループが考える「消費者重視経営」 …… 10

雪印メグミルクグループについて
雪印メグミルクグループの概要 …… 11
雪印メグミルクグループ中期経営計画 …… 13
雪印メグミルクグループ会社紹介 …… 15

雪印メグミルクグループのCSRマネジメント
コーポレート・ガバナンス …… 17
雪印メグミルクグループのCSR …… 19
コンプライアンス …… 21
リスクマネジメント …… 22

特集 乳（ミルク）にこだわる …… 23

社会性報告
安全で安心していただける商品をお届けするために …… 27
「酪農生産への貢献」のために …… 31
「食」の大切さと尊さを伝えるために …… 33
地域・社会への貢献 …… 35
働きがいのある会社の実現のために …… 37

経済性報告
ミルクの可能性を引き出す取り組み …… 39

環境報告
環境マネジメント …… 41
地球温暖化防止 …… 43
廃棄物の削減とリサイクル …… 44
ものの流れと環境影響（マテリアルフロー） …… 45
雪印メグミルクグループの環境保全活動 …… 46

詳細説明 …… 49
ステークホルダーからのメッセージ …… 53

[報告対象期間]
2010年度（2010年4月1日~2011年3月31日）を対象期間としていますが、一部、2011年度の実績と将来目標についても掲載しています。

[報告対象企業]
本報告書に記載した情報は、雪印メグミルクグループ（雪印メグミルク（株）およびその関連会社）を対象としています。ただし、対象企業全ての情報を網羅しているわけではありません。また、社名の表記のないものは、雪印メグミルク（株）の取り組みです。

[参考にしたガイドライン]
●GRI「サステナビリティレポーティングガイドライン（第3版）」
●環境省「環境報告ガイドライン（2007年版）」

[発行時期]
今回の発行：2011年6月
次回の発行：2012年6月予定
●本報告書は、年次版として毎年発行します。

[お問い合わせ先]
雪印メグミルク株式会社　CSR部
東京都新宿区本塩町13番地
TEL.03-3226-2064　FAX.03-3226-2163

～雪印メグミルクグループは社会的使命を果たすべく、CSR経営を積極的に推進してまいります。～

雪印メグミルク株式会社
代表取締役社長
中野吉晴

このたびの東日本大震災により、被災された皆様に謹んでお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

2011年4月1日に雪印メグミルク株式会社は、日本ミルクコミュニティ株式会社、雪印乳業株式会社と合併し、新たにスタートいたしました。

2009年10月の経営統合時より、3年以内の合併を目指し準備を進めてまいりましたが、経営統合後1年半での合併を実現できましたことは、多くの皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

今回の合併により、牛乳･乳飲料を主たる事業とする日本ミルクコミュニティ株式会社と乳製品を主たる事業とする雪印乳業株式会社がひとつとなることで、乳（ミルク）にこだわり、お互いが持つ技術を結集し、今まで以上にお客様･消費者へ価値ある商品をお届けすることができると考えております。

雪印メグミルクグループ企業理念

雪印メグミルクグループは企業理念を「『消費者重視経営の実践』『酪農生産への貢献』『乳（ミルク）にこだわる』の3つの使命を果たし、ミルクの新しい価値を創造することにより、社会に貢献する企業であり続ける」といたしました。私は雪印メグミルクグループのCSRはこの企業理念の実現にあると考えております。

また、コーポレートスローガン「未来は、ミルクの中にある。」には、ミルクの新しい価値を創造することにより、牛乳･乳製品の需要を高めるとともに、お客様･消費者に価値ある商品をお届けしたいという思いを込めました。全役職員がこのスローガンのもと、心をひとつにして皆様のご期待にお応えできる企業グループを築いてまいります。

東日本大震災の影響について

2011年3月11日に発生した震災で、グループ会社を含めて東北、関東の一部工場が被災し、生産が一時停止いたしました。また、原料･資材メーカーなどお取引先様の被災や交通網の分断、燃料不足などにより製品および原材料の調達や輸送にも支障をきたしました。このような状況の中、メーカーとしての供給責任を果たすため、早期の設備復旧および原材料の確保に努め、1週間程度で順次、生産･出荷を再開し、4月中旬には震災前の生産量まで回復を果たすことができました。

商品の供給が一時的に停止したことにより多くの皆様に多大なるご迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申し上げますとともに、改めて、お客様･消費者へ商品を日々お届けすることの大切さを強く認識し活動してまいります。

今後も、これまでにない厳しい環境が続くことが予測されますが、雪印メグミルクグループは全役職員が力を合わせ、皆様のご期待に応えてまいります。

これからの雪印メグミルクグループについて

私は「社員が誇りを持って自らの可能性と未来をかけることが出来る強い会社」を目指してまいります。その実現のためには、社員一人ひとりが社会の一員であることを認識し、当社の根幹である「品質保証」と「コンプライアンス」を遵守し活動していくことが不可欠です。そして、その上で強い会社を目指し、中期経営計画を推進してまいります。

「品質保証」については、当社で定めたMSQS（雪印メグミルク品質保証システム）のもと、法令遵守はもとより、厳格な社内基準を定め、それをクリアすることで商品の安全を保証してまいります。さらに、適切な商品表示や情報を発信していくことにより、安全で安心していただける商品をお届けしてまいります。

「コンプライアンス」については、役職員の全ての企業活動の原点として「雪印メグミルク行動基準」を定め、全役職員が遵守するように定着･徹底に努めてまいります。

中期経営計画については、その3年目として「カテゴリーNo.1戦略への集中と、合併を通して構造改革を推進し、次世代型総合乳業メーカーを目指す」を経営方針に掲げております。私たちが求める合併は単なる1+1=2ではなく、「2+α」の追求です。「+α」とは、合併によるシナジー効果だけではなく、環境に配慮し、お客様･消費者、酪農生産者、お取引先などの多くの関係者に対して、雪印メグミルクでなければ創造できない価値を提供していくことです。この「+α」を生み出し極大化していくために、効率的な生産体制を築き、魅力ある商品を生み、事業拡大に向けた取り組みを強化してまいります。併せて、社員が常にのびのびと挑戦していくための制度･機会の創出を進めてまいります。

雪印メグミルクグループは「CSR」を経営の基盤としていきます。これまで以上にお客様･消費者に安全で安心していただける商品を安定してお届けしていくことや、継続した社会貢献活動を実践していくことで、社会的責任を果たしてまいります。

「未来は、ミルクの中にある。」

雪印メグミルクグループ東日本大震災に関するご報告

このたびの東日本大震災により、被災された皆様に謹んでお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。3月11日に発生した東日本大震災での雪印メグミルクグループにおける影響およびその後の対応について、ご報告いたします。

1 震災に伴う被害状況について

● 事務所、工場等の物的被害状況

3月11日の本震で東北支店事務所はロッカー・OA機器が倒れ、書類が散乱、電気・ガスがストップしました。その後、4月7日の余震により支店5Fの宣伝資材置場の天井が崩れ、危険な状況となりました。

工場では野田工場（千葉県野田市）、グループ会社のみちのくミルク（株）（宮城県大崎市）と、いばらく乳業（株）（茨城県水戸市）において、停電、断水、配管等製造設備の損傷が発生した他、野田工場では倉庫の破損・製品落下が発生しました。いずれも致命的ではありませんでしたが、上記の3工場で一時的に操業が停止しました。

東北の物流体制は、社内ネットワーク寸断のため受発注が全てストップした他、出荷場所で商品の倒壊・水没が発生しました。

商品が散乱した倉庫（野田工場）

被災した設備（みちのくミルク（株））

倉庫内まで押し寄せた津波
（仙台物流センター）

津波により流されたトラック
（仙台物流センター）

● グループ会社の被害について

雪印種苗（株）では、鹿島工場（茨城県鹿島市）が被災し、八戸・石巻の飼料生産子会社においても津波による甚大な被害を受けました。また東北地区の事務所・工場敷地内で亀裂、荷崩れ等が発生しました。

その他のグループ会社でも、荷崩れ、資材散乱、倉庫の冠水等が散見されましたが、事業継続に支障が生じる状況には至りませんでした。

● 社員・家族の安否状況

グループ会社も含めた全社員およびその家族の安否確認を2週間以内に完了しています。

● 東日本大震災での体験談

東日本大震災、そのとき私は

ドン・ドン・ドン…と突き上げるような「縦揺れ」。その後、大きな横揺れが2、3分続いたと思います。3月11日14時46分マグニチュード9.0の大地震が東北支店を襲いました。4月の合併を前に営業拠点の一体化を実施し、当日も多くの方が執務中でした。「縦揺れは危険信号?」と思い、全員机の下へ避難をし、揺れの沈静化をひたすら待ち続けました。

揺れが落ちついた後の事務所を見ると、ロッカーの転倒、コピー機の崩落、書類の散乱等で様変わりしていました。すぐに、裏の公園へと避難後、まず従業員の安否確認をし、全員無事であったことに安堵しましたが、被害の大きさと今後の対応を考えると大変暗鬱な気分になったことを思い出します。その後の状況は新聞報道の通りで、大震災の恐ろしさを改めて痛感いたします。

雪印乳業（株）
東北支店長（当時）
山口 和男

2 震災を受けての復旧対応について

● 工場等の復旧について

被災した各工場については、いばらく乳業（株）（18日）、野田工場（21日）、みちのくミルク（株）（25日）全て3月中に操業を再開しています。

比較的被害の少なかった海老名工場（神奈川県海老名市）でも、計画停電の影響から主力製品のヨーグルトは4月4日まで生産することができませんでしたが、4月11日より本格的に製造を開始しました。

震災直後、大きな被害を受けた東北の物流体制ですが現在では、従来の配送拠点を変えるなどの処置を行ない震災前の状況までは戻っていませんが、お客様にお届けするには支障無いレベルにまで回復しています。

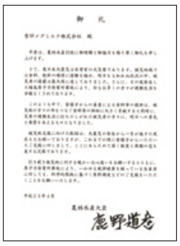
東北地区在住の社員に対しては東北地区支援チームが東北支店に支援のために駐在し、家族の転居なども含め、社員のケアを行なっています。（5月末現在）

3 被災地への支援活動について

● 粉ミルクなどの物資支援を行ないました

農林水産省・一般社団法人日本乳業協会と連携し、被災地へ育児用粉ミルクを9,240缶、およびベビーフードの提供を行なった他、福島県・茨城県についても要請に基づき緊急物資の支援を行なっています。

また、内閣危機管理センター等と連携し、特殊ミルク（特殊ミルクについて詳しくはP39）の被災地医療機関への提供を行なっています。



鹿野農林水産大臣
松本防災担当大臣からお礼状をいただきました

● 日本赤十字社を通じて、義援金をお送りしました

3月31日に雪印メグミルクグループとして1億円と、従業員からの約630万円を日本赤十字社を通じて義援金としてお送りしています。

4 節電への協力・省エネルギー化の取り組みについて

[1]全社での取り組み

2011年5月16日から10月末まで「節電ビズ」を実施し、節電対策・省エネルギーに取り組んでいます。

1. 空調は28度を厳守し、体感温度を下げる目的で軽装での勤務を呼びかけています。
2. 照明の削減として就業時間中は指定場所の消灯と、昼休み時間は必要とされる部分以外の場所については全て消灯しています。
3. 電気機器を効率的に利用し節電効果を高める取り組みとして、本社エレベーターの一部稼動の停止やパソコンのスリープモードなどを活用しています。

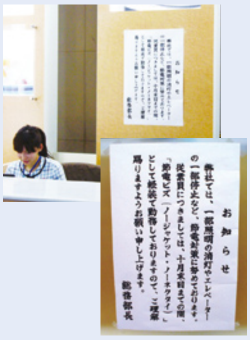
ライトダウンした本社受付

[2]本社での取り組み

2011年7月から9月末までサマータイム制、シフト勤務制を導入し、電力使用量の平準化をはかります。

[3]工場での取り組み

1. 自家発電設備の導入として以下の2項目を実施します。
   - 神戸工場、関西チーズ工場の2工場のコージェネレーションシステム 1（発電機500kw相当）を野田工場、横浜チーズ工場へ移設します。
   - 川越工場に150kw程度の発電機を設置します。
2. 一部ラインの夜勤化や工場間の生産品目調整により、電力使用量の平準化をはかります。
3. 今後、計画停電が実施された場合を想定して、海老名工場にて稼動しているコージェネレーションシステムの改造を行ないます。現行では、電力会社からの受電が止まるとコージェネレーションシステムも停止しますが、単独運転可能とするための改造を実施し、構内の一部の機器を稼動させ、生産量の落ち込みを抑えます。



節電を効率良く
実施していきます

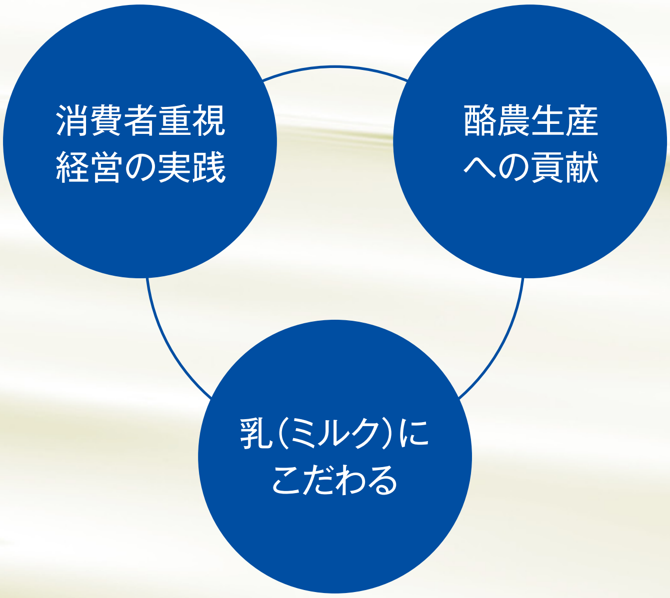
1 **コージェネレーションシステム：** 発電時の廃熱などを用いて、電力と熱を併給し、エネルギーの効率的利用をはかるシステム。

雪印メグミルクグループ企業理念

私たち雪印メグミルクグループは、重要なステークホルダーであるお客様・消費者そして酪農生産者の皆様の期待に応えていくこと、私たちの原点である乳（ミルク）にこだわり続けていくことが使命であると考えています。雪印メグミルクグループ企業理念には、この使命を果たすことで社会に貢献する企業であり続けるという私たちの強い思いが込められています。

雪印メグミルクグループの企業理念は、
私たちの使命とコーポレートスローガンで構成します。

私たちの使命



私たち雪印メグミルクグループは、3つの使命を果たし、
ミルクの新しい価値を創造することにより、
社会に貢献する企業であり続けます。

コーポレートスローガン

未来は、ミルクの中にある。

私たちの「3つ」の使命

消費者重視経営の実践

雪印メグミルクグループは、消費者基本法に定められた「消費者の権利」と「事業者の責務」をしっかりと認識し、

- 安全で安心していただける商品・サービスを提供すること
- 可能な限りの情報提供、情報開示を行うこと
- 消費者の声を傾聴し、経営に反映していくこと
- 危機管理の体制を整え、不測の事態に迅速且つ適切に対応していくこと

を基本姿勢として、
消費者重視経営を実践していきます。

酪農生産への貢献

私たち雪印メグミルクグループは、日本の酪農を基盤として成り立っています。私たちは、酪農生産者の良きパートナーとして信頼関係を深め、乳の価値をしっかりと伝えていくことで生産者の想いに応えていきます。
そして、牛乳・乳製品の需要拡大を実現することで、国内酪農生産の基盤の強化と持続的発展に貢献していきます。

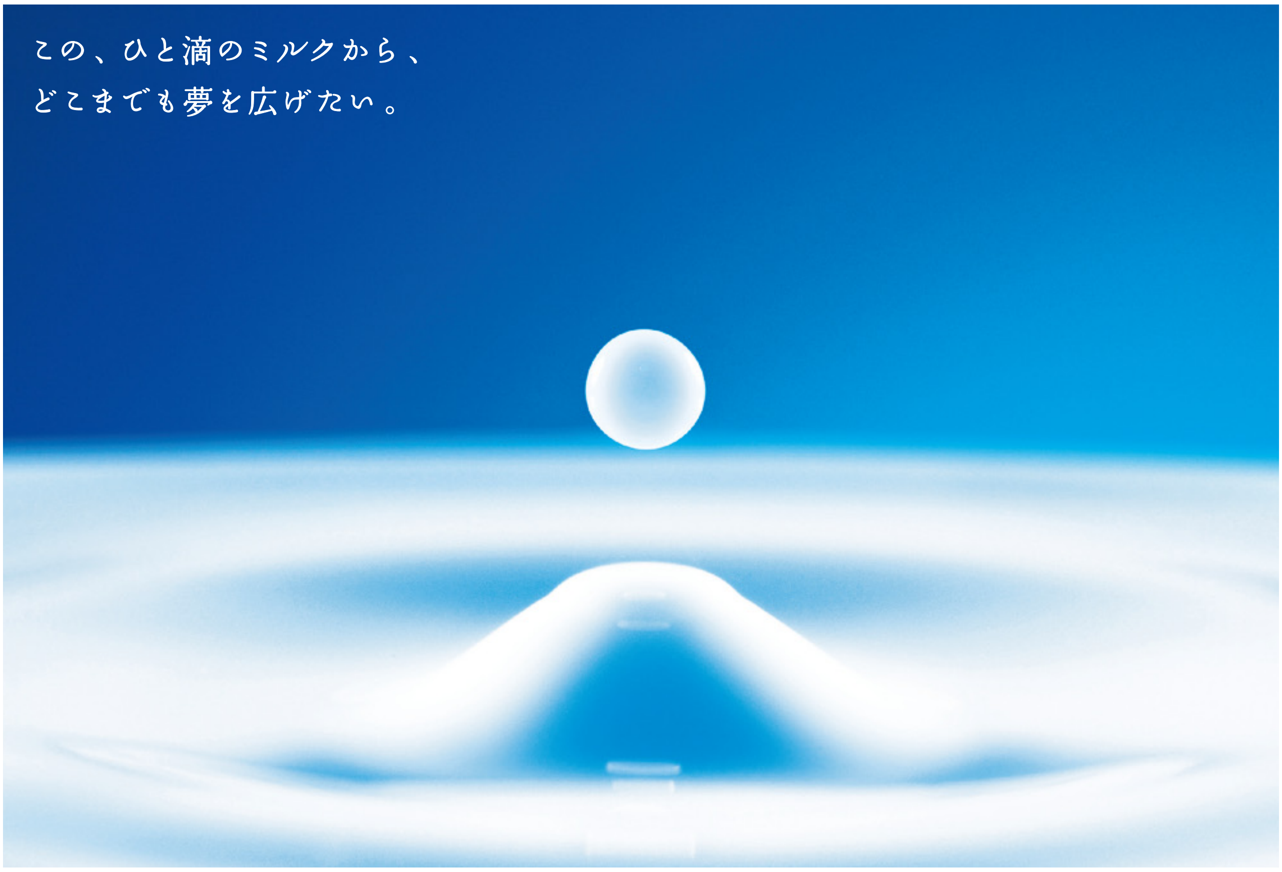
乳（ミルク）にこだわる

私たち雪印メグミルクグループは、ミルクの持つ無限の可能性を信じ、ミルクに向き合い、ミルクにこだわり続けることで、ミルクの持つ可能性を「深め」、ミルクの価値を「高め」、世界に「拡げていく」ことを実現していきます。

コーポレートスローガン

～未来を創造する、新しい会社のメッセージとして～

私たちは新しい企業グループの立脚点であり、進んでいく方向を示すものとして、コーポレートスローガン「未来は、ミルクの中にある。」を制定しました。私たちはミルクにこだわることで、未来を創造する次世代型総合乳業メーカーを実現していきます。



未来は、ミルクの中にある。

ミルクは、人間のために何ができるか。私たちはいつも、その思いを胸に歩いてきました。
人がすくすくと育つこと。人がいきいきと生きること。人が食べるよろこびにあふれ、日々をすごすこと。
そのために、私たちはミルクとともにがんばってきました。これは、まぎれもなく私たちの大きな誇りです。
でも、この星の、大地のめぐみをぞんぶんに吸収したミルクにとって、その可能性は、
まだまだこんなものではない。そう考えています。
その豊かな栄養価。人のからだをつくり、守る力。心を穏やかにいやす包容力。
そして、どんなものに形を変えても人をとりこにする、その底知れないおいしさ。その中には、きっと、
私たちがまだ出会っていない「未知のミルク」が眠っている。そのパワーを引き出すのは、
世界の誰よりもミルクを愛する私たちしかいない。そう思うのです。
雪印メグミルクが生まれたのはそのためです。食の安全という至上の責任のもとに、
ミルクにこだわり、みがいてきた専門技術を、いっそう高めていきたい。
そののびやかな企業風土の中で、かつてない、いくつもの価値を生み出したい。

ミルクを見つめることは、未来を見つめること。
この国のミルクの健やかな成長のために、この国の酪農とともに歩んでいきたい、
私たち雪印メグミルクです。

雪印メグミルク

雪印メグミルクグループが考える「消費者重視経営」

雪印メグミルクグループでは「3つの使命」の1つである消費者重視経営を実践していくために「消費者基本法」に則り、消費者に対する「4つ」の姿勢に基づき、「7つ」の核となる取り組みを行なっています。その取り組み内容については活動報告書に掲載しています。

消費者基本法
（平成16年制定）

消費者の『8つ』の権利

❶ 国民の消費生活における基本的な需要が満たされ、
❷ その健全な生活環境が確保される中で、
❸ 消費者の安全が確保され、
❹ 商品及び役務について消費者の自主的かつ合理的な選択の機会が確保され、
❺ 消費者に対し必要な情報及び
❻ 教育の機会が提供され、
❼ 消費者の意見が消費者政策に反映され、
❽ 並びに消費者に被害が生じた場合には適切かつ迅速に救済されること

※条文の内容をわかり易くするために、❶～❽までの数字をつけて表記しました。

向き合う

事業者の『5つ』の責務

1. 消費者の安全及び消費者との取引における公正を確保すること。
2. 消費者に対し必要な情報を明確かつ平易に提供すること。
3. 消費者との取引に際して、消費者の知識、経験及び財産の状況等に配慮すること。
4. 消費者との間に生じた苦情を適切かつ迅速に処理するために必要な体制の整備等に努め、当該苦情を適切に処理すること。
5. 国又は地方公共団体が実施する消費者政策に協力すること。

※条文のまま表記しています。

雪印メグミルクグループの「4つ」の姿勢

- 安全で安心していただける商品の提供
- 消費者への情報提供、情報開示
- 消費者の声を傾聴し、経営に反映
- 危機管理体制の整備により迅速、適切に対応

消費者基本法を根幹とした消費者重視経営

情報開示

■ 活動報告（CSRの確立に向けて）
■ ホームページ

雪印メグミルクグループの「7つ」の取り組み

企業倫理委員会 → p.17
- 品質部会（社外視点の工場品質監査）
- 消費者部会（消費者重視経営への意見）
- 表示部会（消費者視点の商品表示確認）

品質保証体制の確立 → p.29
- MSQSによるPDCAとスパイラルアップ

危機管理体制構築 → p.22
- 商品告知回収体制の確立と運営
- 日次でのお客様センター入電状況定時報告
- 週次でのリスク連絡会による情報共有化

お客様センター → p.27
- 苦情への迅速で適切な対応
- 消費者の声を傾聴
- 「お客様満足向上ミーティング」の開催

お客様モニター → p.27
- 消費者の声を傾聴し、消費者視点での相互理解を進める

HP運営
- 消費者への情報開示、経営の透明性
- ネガティブ情報も公正に開示

食育・普及 → p.33
- 食の大切さ、乳の大切さを伝える

雪印メグミルクグループの概要

コーポレートシンボルマーク

雪の結晶とミルククラウンの融合を表すコーポレートシンボルマーク「スノーミルククラウン」には、合併に対する雪印メグミルクの決意が集結されています。

ミルククラウンは、自然のめぐみであるミルクの優しさ、豊かな滋養、秘めた可能性を、雪の結晶と北極星は、私たちがこれまで培ってきた高い技術力、専門性、正確さ、信頼を表しています。この二つの要素が融合したスノーミルククラウンは、ミルクの未知の可能性への期待や挑戦する意気込みを示すものであり、私たちが目指すお客様に提供する価値の象徴です。

合併新会社のブランド体系

コーポレートブランド	雪印メグミルク					
サブブランド	雪印	MEGMILK	ナチュレ 恵 megumi	まいにちほねぶと 毎日骨太	北海道と育てたチーズ。 雪印北海道100 北海道産生乳100%使用	新規戦略ブランド
商品ブランド（商品名）【例】	雪印北海道バター 雪印ネオソフト	MEGMILK 牧場の朝	ナチュレ 恵 megumi	毎日骨太	雪印北海道100 さけるチーズ	商品ブランド（商品名）

会社概要

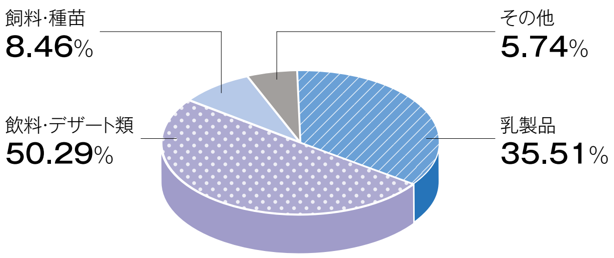
商　　　号	雪印メグミルク株式会社 MEGMILK SNOW BRAND Co.,Ltd.
事 業 内 容	牛乳、乳製品及び食品の製造・販売等
本店所在地	（登記上本店） 北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号 （本社） 東京都新宿区本塩町13番地
設立年月日	平成21年（2009年）10月1日
代 表 者 の 役 職・氏 名	代表取締役社長　中野 吉晴
資　本　金	200億円
決　算　期	3月31日

連結経営成績 (単位:百万円)

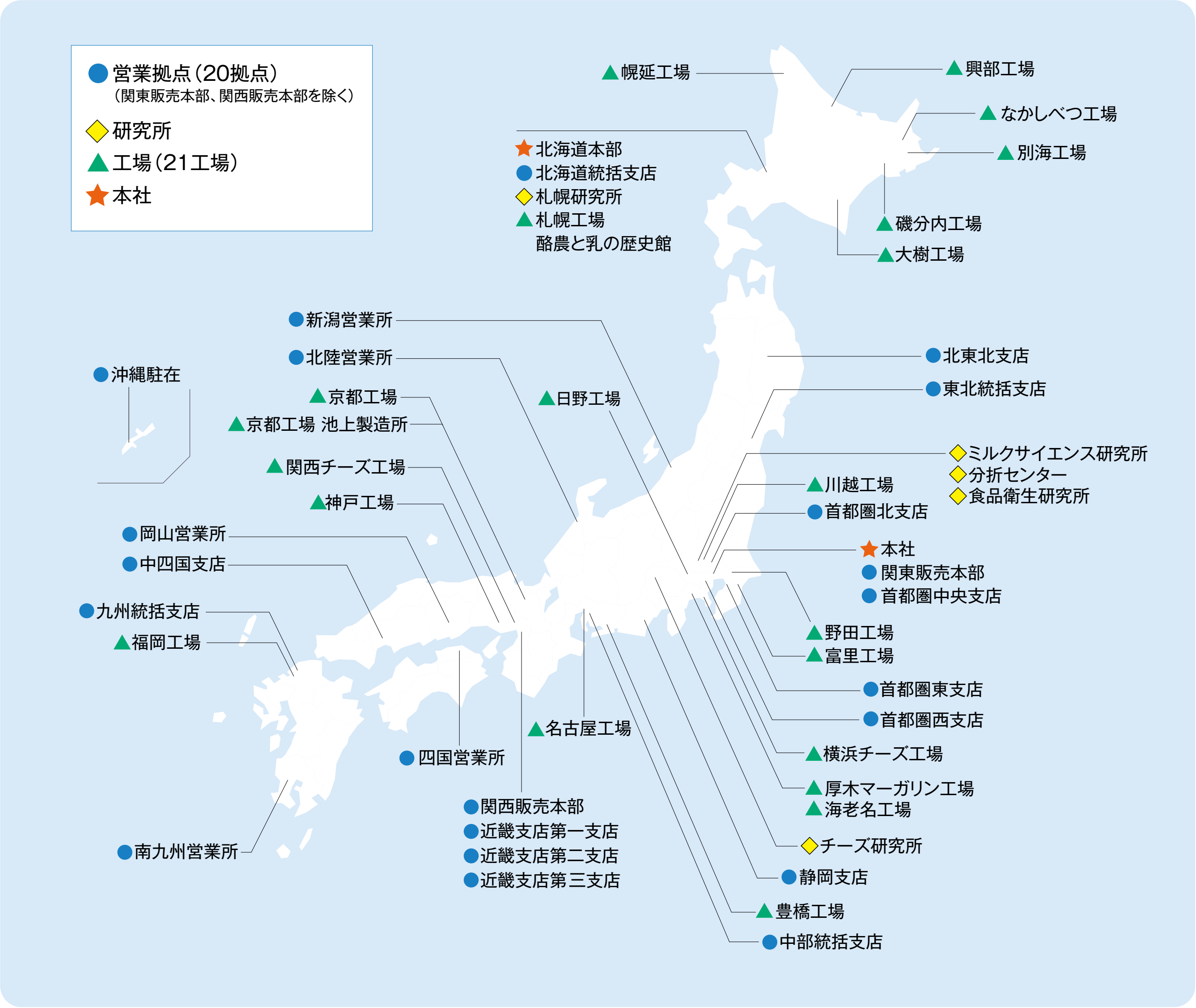
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
23年3月期	504,223	15,649	17,347	9,331
22年3月期	393,373	12,715	14,904	9,257

※22年3月期の数字は、通期 雪印乳業（株）連結経営成績に、
　下期 日本ミルクコミュニティ（株）の連結経営成績を加算したものです。

品目別売上構成比



事業所一覧



雪印メグミルクグループ中期経営計画

～次世代型総合乳業メーカーを目指して～

中期経営計画の概要

「雪印メグミルクグループ中期経営計画［平成21年度（2009年度）～平成25年度（2013年度）］」は、2009年10月の経営統合により日本ミルクコミュニティ（株）と雪印乳業（株）の双方が持つ経営資源を一体化して、シナジー[1]を創出し、イノベーション[2]に挑戦することで企業価値の向上を目指す取り組みです。

- 乳酸菌研究をはじめとした研究開発機能の強化
- 戦略的な生産設備・マーケティング投資

により成長戦略を確実なものとし、併せて、新たな事業、海外市場への展開による成長を実現していきます。

中期経営計画の4つのポイント

取り組みにおける重要ポイント

1. 乳（ミルク）に徹底してこだわり、極める
2. 統合シナジー効果の早期創出
3. 研究開発力の徹底強化
4. イノベーションへの挑戦

[1] シナジー：経営戦略で、各部門の相乗作用を活かした効果として、1+1=2+αの+αを生み出すこと。

[2] イノベーション：新しい技術や考え方を取り入れて、新しい価値を生み出し、社会的な変化を起こすこと。革新。

中期経営計画の中心戦略「カテゴリーNo.1戦略」を遂行し、「次世代型総合乳業メーカー」へ

シナジーの創出とイノベーションへの挑戦

2009年10月1日の経営統合後は、持株会社経営により、第1ステップの「事業基盤の強化」として事業構造改革と研究開発を強化するとともに、3つのステップを前倒しして取り組むなど、シナジー効果の早期最大化に注力しました。

2011年4月の合併により、第2ステップ、第3ステップの取り組みを加速させ、更なる企業価値向上を目指します。

中期経営計画の基本コンセプト

Step 1

- 「事業構造改革」「研究開発力強化」による事業基盤の強化

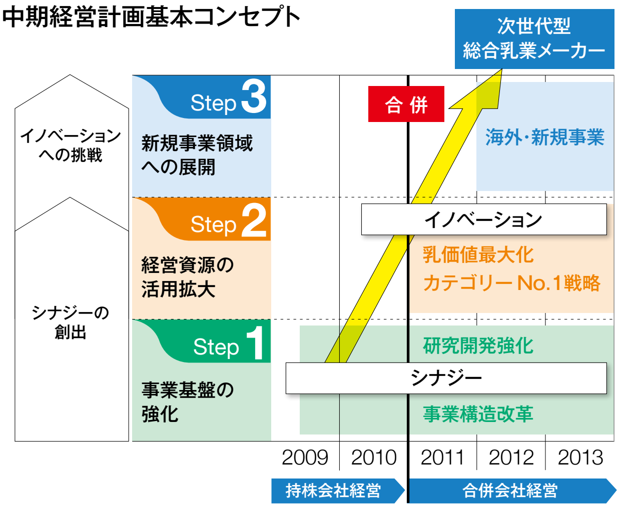
Step 2

- 経営資源の活用拡大による「カテゴリー No.1戦略推進」「乳価値の最大化」

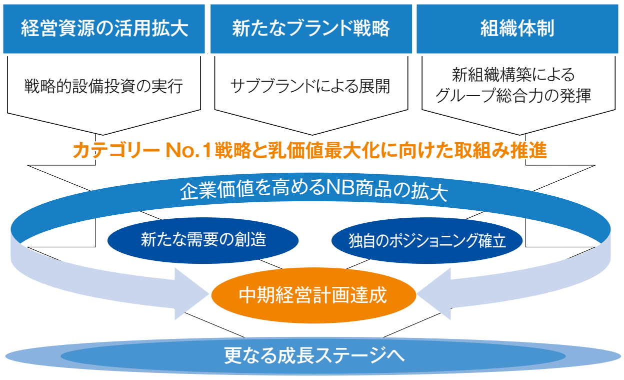
Step 3

- 新規事業領域への展開としての「海外展開」
- 「グループ事業の戦略的拡大」

中期経営計画基本コンセプト



合併後の取組み



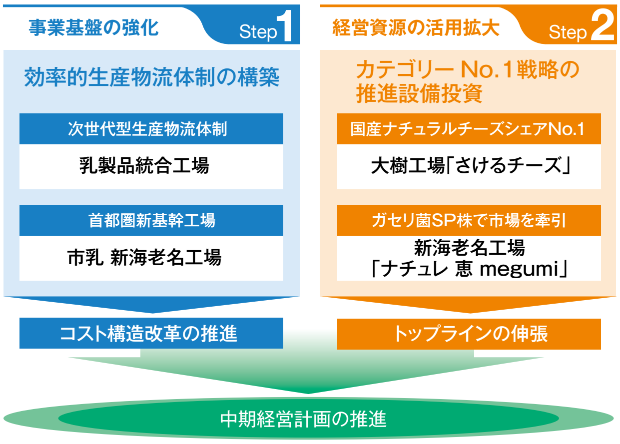
Step 1

戦略的設備投資の実行

事業戦略の第1ステップ「事業基盤の強化」として「効率的生産物流体制の構築」に取り組みます。

プロセスチーズとマーガリン類の乳製品統合工場を茨城県阿見町に建設し、次世代型の生産物流体制を構築します。また、首都圏における市乳事業の新基幹工場の位置付けとして、既存の海老名工場を新海老名工場として再構築します。

乳製品総合工場の完成予想図



Step 2

カテゴリーNo.1戦略の推進

カテゴリーNo.1戦略は、主に成長戦略の重点カテゴリーである「乳飲料」「ヨーグルト」「デザート」「ナチュラルチーズ」を対象とし、商品開発を中心に、戦略的設備投資や、ブランド戦略、組織体制強化など中期経営計画達成に向けて複合的に取り組む戦略です。この戦略を遂行することで市場に新たな需要を創出し、独自のポジショニングを確立していきます。

カテゴリーNo.1戦略を遂行することで、中期経営計画を確実に達成し、更なる成長のステージへ進んでいきます。

※ NB：ナショナルブランドの略。

Step 3

海外事業の展開

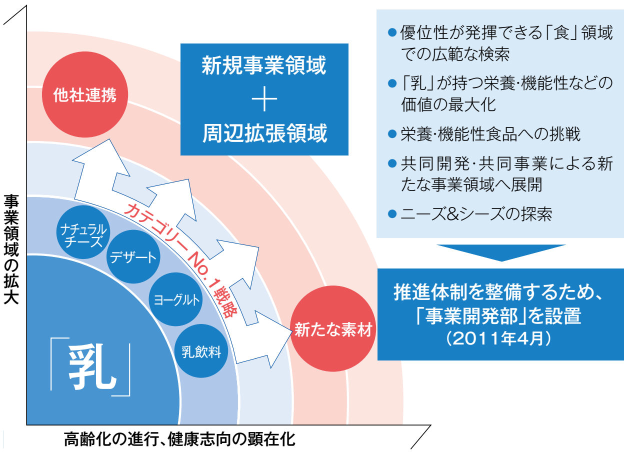
少子高齢化、人口減少など国内市場の現状から海外事業の展開を加速させるため「海外事業部」を2010年4月に設置しました。既存事業の拡大と生産拠点・人材などのインフラ構築を推進し、本格的な海外事業の展開を目指します。

新たな事業領域への挑戦

合併後、新たな事業領域に挑戦する専門部署として「事業開発部」を2011年4月に新設しました。

「事業開発部」の主な機能は、新規事業に関するビジネスチャンスの創出および、優位性が発揮できる「食」領域での広範な探索と事業化です。

少子高齢化、健康意識の高まりなどの変化を踏まえた新たな事業機会の探索、さらには内外を問わず、独自の素材や技術を活かし「乳」を基軸に食品を中心とした新たな領域に挑戦していきます。



雪印メグミルクグループ会社紹介

雪印メグミルクグループは、お客様・消費者の楽しく健康なくらしに貢献するために、
乳への取り組み以外にも様々な商品やサービスを皆様にお届けしています。

雪印種苗（株）

代用乳「ゆきみるく」

設立	昭和25年12月
資本金	4,643百万円
グループ計持株比率	100.0%
所在地	北海道札幌市
代表者	掛村 博之
事業内容	種苗・農畜産物の生産および販売、飼料の製造および販売、造園事業、種苗の品種改良および試験研究

チェスコ（株）

リニューアルした阪神百貨店本店内ショップ

設立	昭和32年3月
資本金	472百万円
グループ計持株比率	90.9%
所在地	東京都新宿区
代表者	西尾 啓治
事業内容	ナチュラルチーズ・食料品・酒類・雑貨の輸入および製造・加工販売

（株）エスアイシステム

共配センター全景

設立	平成9年1月
資本金	200百万円
グループ計持株比率	100.0%
所在地	東京都渋谷区
代表者	佐藤 佳嗣
事業内容	チルド・フローズンを中心としたベンダー、マーチャンダイジングと共配センター運営事業

八ヶ岳乳業（株）

好評のご当地牛乳

設立	昭和29年1月
資本金	60百万円
グループ計持株比率	100.0%
所在地	長野県茅野市
代表者	藤田 昭雄
事業内容	牛乳・加工乳・乳飲料・発酵乳の製造および仕入れ・販売、チーズの加工、運送・取扱業

直販配送（株）

お客様へ安心品質とともに

設立	昭和55年4月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	70.0%
所在地	東京都渋谷区
代表者	齋藤 耕司
事業内容	共同配送センターの運営事業、チルド商品配送事業、一般貨物運送事業

雪印オーストラリア（有）

製造している商品

設立	平成4年12月
資本金	22百万A$
グループ計持株比率	100.0%
所在地	メルボルン（オーストラリア）
代表者	菅野 宏行
事業内容	育粉、ナチュラルチーズの製造・販売、乳製品の輸出入

いばらく乳業（株）

茨城の自然から生まれた「つくば」シリーズ

設立	昭和34年1月
資本金	118百万円
グループ計持株比率	100.0%
所在地	茨城県水戸市
代表者	長谷川 敏
事業内容	牛乳、乳飲料、清涼飲料、発酵乳、デザート等の製造販売

（株）クレスコ

販売している包装材

設立	昭和23年8月
資本金	38百万円
グループ計持株比率	100.0%
所在地	東京都北区
代表者	佐野 和生
事業内容	食品資材・軟包装・紙器・容器などの仕入販売

みちのくミルク（株）

本社工場外観

設立	平成8年10月
資本金	467百万円
グループ計持株比率	100.0%
所在地	宮城県大崎市
代表者	山本 純
事業内容	牛乳、乳飲料、清涼飲料、発酵乳、デザート等の製造販売

三和流通産業(株)

設立	昭和29年1月
資本金	450百万円
グループ計持株比率	100.0%
所在地	埼玉県さいたま市
代表者	竹本 行雄
事業内容	日配チルド食品等の卸売事業、共配センター事業

本社・浦和事業所

ビーンスターク・スノー(株)

設立	平成14年8月
資本金	500百万円
グループ計持株比率	80.0%
所在地	東京都新宿区
代表者	林 茂
事業内容	育児用粉乳・離乳食などの育児関連商品および機能性食品などの研究開発・製造・販売

新商品 毎日一粒 MBP®

甲南油脂(株)

設立	平成4年7月
資本金	100百万円
グループ計持株比率	51.0%
所在地	兵庫県神戸市
代表者	丸井 公男
事業内容	マーガリン類等の製造販売

受託生産している雪印ネオソフト

(株)YBS

設立	昭和46年4月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	100.0%
所在地	東京都新宿区
代表者	水口 恒夫
事業内容	ビルの総合保守管理、損害保険代理業、建築工事の施工

各事業を支えるスタッフ

ニチラク機械(株)

設立	昭和29年4月
資本金	50百万円
グループ計持株比率	53.0%
所在地	埼玉県さいたま市
代表者	内田 博視
事業内容	食料品製造を主体としたプラントおよび機械の設計、製造、施工、販売、修理およびメンテナンス

チーズ乳化釜

台湾雪印(株)

設立	平成4年12月
資本金	7百万NT$
グループ計持株比率	100.0%
所在地	台北(台湾)
代表者	小原 康嗣
事業内容	育粉、乳製品等の輸入・販売

取り扱い商品

(株)雪印パーラー

設立	昭和36年4月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	100.0%
所在地	北海道札幌市
代表者	小川 澄男
事業内容	食堂・売店経営、乳製品などの販売

話題の新デザート「さっぽろタワー」

MCビジネスサポート(株)

設立	平成19年4月
資本金	10百万円
グループ計持株比率	100.0%
所在地	東京都新宿区
代表者	福山 光一
事業内容	自動販売機・冷蔵庫の販売・メンテナンス業務、食品製造販売に係わる衛生管理指導業務、食品販売に係わる販売促進業務の請負

執務風景

グリーンサービス(株)

設立	昭和55年11月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	70.0%
所在地	東京都調布市
代表者	山本 家久
事業内容	共同配送センター運営事業、一般貨物運送事業、自動販売機事業

殺菌乳輸送車

(株)雪印こどもの国牧場

設立	昭和40年8月
資本金	10百万円
グループ計持株比率	100.0%
所在地	神奈川県横浜市
代表者	寺西 正俊
事業内容	牧場運営、牛乳の製造、食堂・売店経営

牧場牛舎の風景

道東飼料(株)

設立	平成13年7月
資本金	300百万円
グループ計持株比率	60.0%
所在地	北海道釧路市
代表者	梅澤 一民
事業内容	配合飼料の製造・販売

事務所と工場の外観

(有)ロイヤルファーム

設立	平成13年2月
資本金	10百万円
グループ計持株比率	44.5%
所在地	青森県十和田市
代表者	寺栖 喜久男
事業内容	肉牛の肥育・販売

本社事務所と社員

※情報は2011年6月28日時点のものです。

コーポレート・ガバナンス

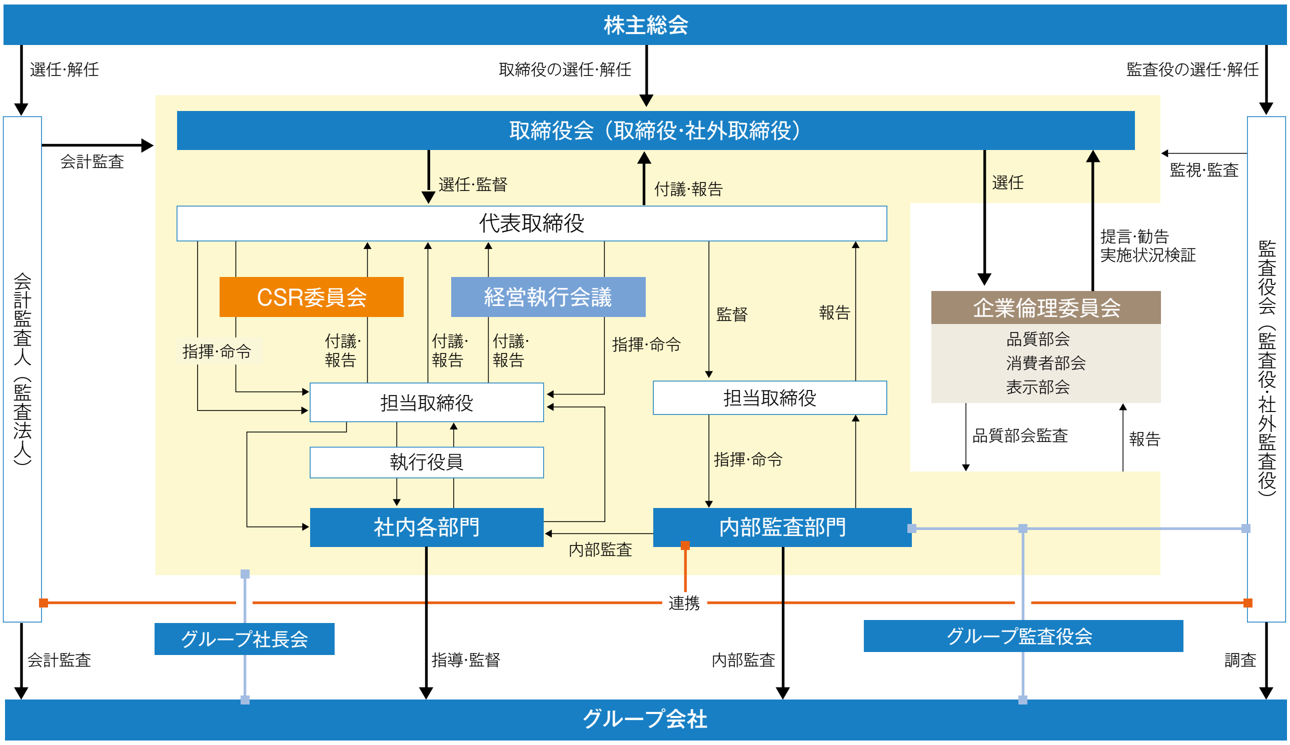
基本的な考え方

経営における透明性の確保と社外からの監視機能の強化、市場の変化に即応できる経営体制の確立を柱に企業価値を向上させていくことをコーポレート・ガバナンス 1 の基本方針としています。

外部有識者を構成メンバーに加えた企業倫理委員会の設置、社外取締役の選任等により、経営に対する監視・監督機能の強化を図っています。

1 **コーポレート・ガバナンス（企業統治）**
企業が健全な企業活動を行なうための体制。

コーポレート・ガバナンス体制図



「社外の眼」～企業倫理委員会～

企業倫理委員会は、社外の有識者·労働組合代表および社内委員によって構成されています。この委員会は取締役会の諮問機関として、原則毎月1回の定例委員会を開催しています。そこでは、経営全般に対する「社外の眼」による検証や提言がなされ、それらは経営に活かされています。なお、企業倫理委員会には、品質部会、消費者部会、表示部会の3つの専門部会があります。

企業倫理委員会 委員一覧➔P49

● 品質部会

工場の品質管理、衛生管理の徹底およびレベルアップを目的として、その道のエキスパートである専任委員が実際に工場を訪問し、監査を実施するとともに、現場担当者との意見交換などを行なっています。工場は、監査での指摘事項や推奨事項、意見交換で出た課題に対して改善策を取りまとめ、企業倫理委員会へ報告しています。

品質部会 委員一覧➔P49

社外からの眼で工場をチェックしています

● **消費者部会**

　消費者団体の代表者、消費者関連の有識者の方々との対話を通じて、社会や消費者が雪印メグミルクグループに求めていること、企業姿勢や取り組んでいる諸活動などについてご意見やご評価をいただき、経営施策への反映を図っています。 消費者部会 委員一覧➔P49

皆様からの活発なご意見を経営に反映していきます

● **表示部会**

　消費者基本法の考え方に則り、商品を選ぶとき、および使うときの重要な情報源である商品表示について検討しています。消費者の方に誤認・誤解を与えず、わかりやすくかつ消費者に基本情報をもれなく提供する表示を目指して、消費者視点で商品のパッケージやチラシなどの表示についてチェックを行なっています。

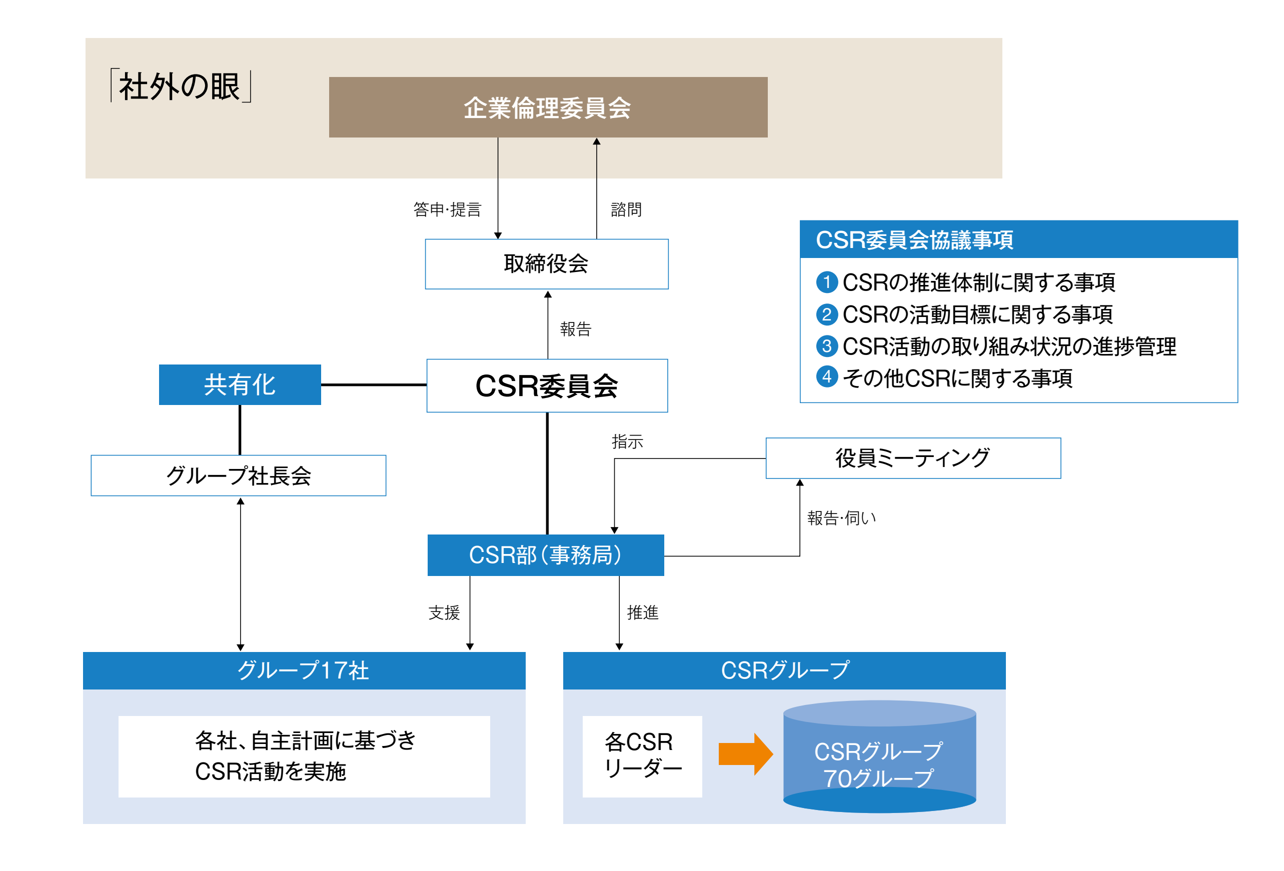
表示部会 委員一覧➔P49

正確でわかりやすい表示を目指していきます

CSR委員会

　雪印メグミルクグループではCSRを推進していく経営レベルのガバナンスとして、「CSR委員会」を設置しています。委員会は社長が委員長を務め、全常勤取締役ならびにCSR部長を委員とし、グループが年度で取り組んできたCSR活動の総括を行ない、次年度の活動目標および活動方針を定めています。

CSR推進体制図



雪印メグミルクグループのCSR

雪印メグミルクグループのCSR経営

企業理念を実現するために、企業活動において、CSRの3つの側面（経済･環境･社会）を考慮し、社会とのよりよい適合を図りながら、ともに持続的に発展していくための経営を推進しています。

雪印メグミルクグループCSR方針

基本的な考え方

- グループ行動規範、自主行動基準に則り、企業理念の実現に向けて行動する。
- コンプライアンスを基本とし、商品・サービスの安全確保（品質保証）の徹底を最重要項目として取り組む。
- 企業倫理を徹底するとともに、「社外の眼」を経営に反映し、社会から信頼される企業グループを目指す。

3つの側面に則した取り組みテーマ

経済側面

主なステークホルダー

お客様･消費者、お取引先、株主

安全で安心していただける商品･サービスの提供を通して皆様の健康に寄与する

1. 「乳（ミルク）」の持つ可能性を追求し、技術の向上に努め、魅力のある商品を開発する。
2. グループ各社の持ち味を活かし、シナジーを発揮することで安定した収益基盤を構築し、グループ企業価値を高める。

環境側面

主なステークホルダー

地球環境、地域社会

かけがえのない地球環境の保全に貢献する

1. 一人ひとりが環境保全への意識を高め、環境保全活動に取り組む。
2. 地球環境と資源を大切にするために、全社での環境保全活動を継続的に推進する。

社会側面

主なステークホルダー

お客様･消費者、酪農生産者、従業員

社会の要請に的確に応え、食の楽しさと大切さを皆様に提供する

1. 消費者基本法を根幹とした、消費者重視経営を実践するための取り組みを推進する。
2. 酪農生産者の良きパートナーとして、酪農乳業界の持続的発展･国内酪農基盤の強化に貢献する。
3. 一人ひとりが主体的に行動し、活力に溢れた、働きがいのある企業風土をつくる。

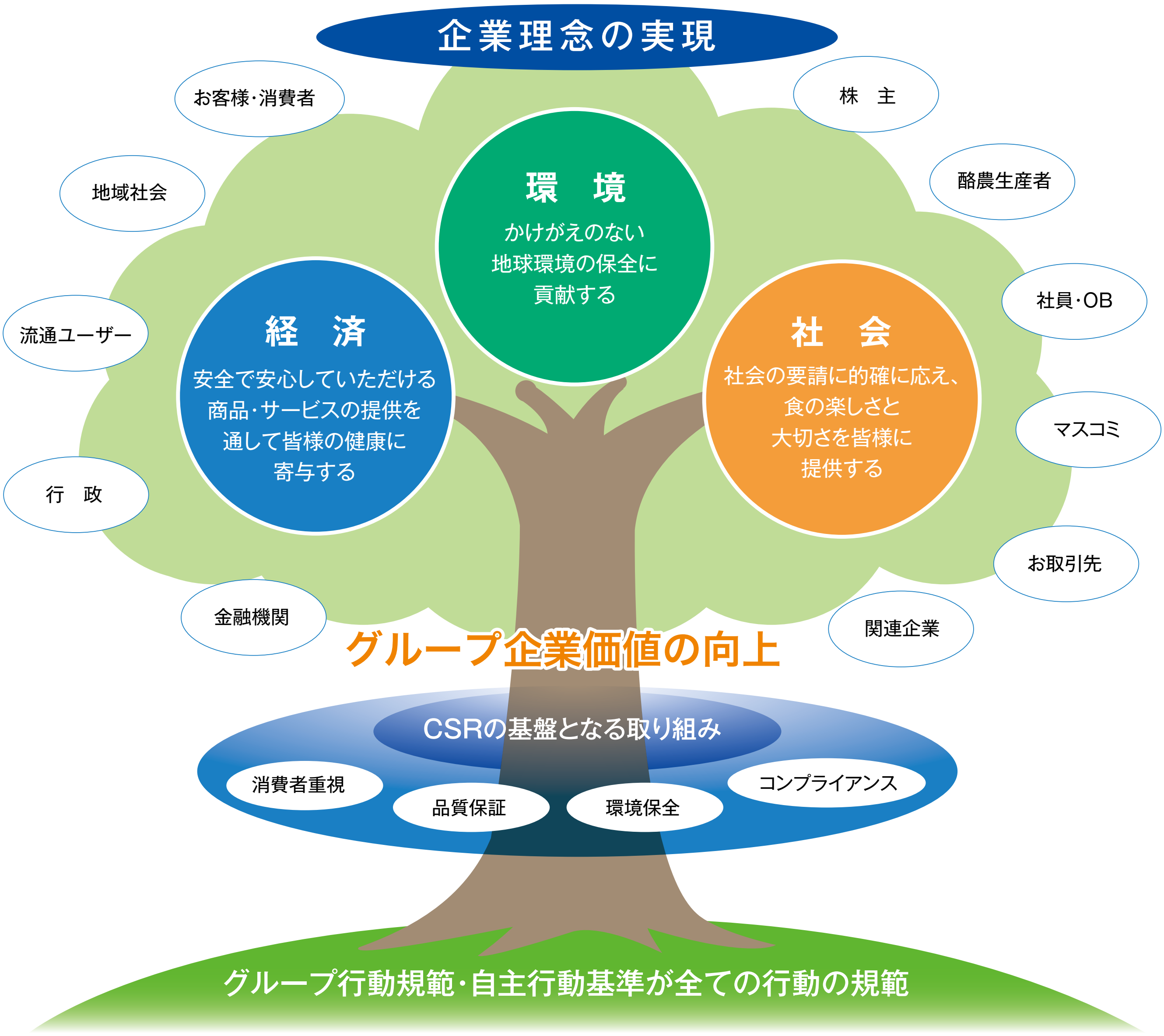
主体的な活動でマインドを醸成 ～CSRグループ活動～

雪印メグミルク（株）ではCSRの確立を目的としてCSRグループ活動を実施しています。その活動内容は職場または事業所を一つのグループとし、全社を70グループに分けグループごとにCSRリーダーを中心に、全社統一テーマでの討議やCSR活動についての情報共有を図っています。

また、「雪印メグミルク行動基準」を基本とし、コンプライアンスの徹底を目的とした活動も実施しています。

CSRの浸透を図るためグループ活動を実施しています

雪印メグミルクグループCSR概念図



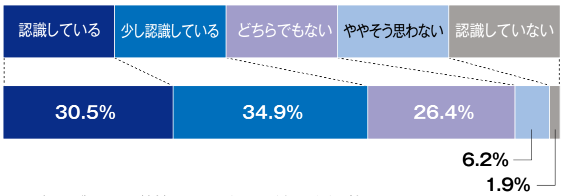
意識の変化が見えてきます ～CSR社員アンケートの実施～

雪印メグミルクグループでは、コンプライアンス·CSRに関する社員の意識·定着度の確認のために、2010年の5月～6月に「CSR社員アンケート」を実施しました。

アンケートは年1回実施し、結果から現状の実態確認を行なうとともに、抽出した課題について対応を行なうことで雪印メグミルクグループのCSR活動をより良いものとしています。 アンケートについての詳細➔P50

CSR社員アンケートの一例

雪印メグミルクグループはCSR経営を実施していきます。
あなたは、そのことを認識していますか?



※雪印メグミルク(株)のアンケート結果を掲載しています。

コンプライアンス

食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動
～雪印の事件を風化させない～

「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動～雪印の事件を風化させない～」は、雪印乳業グループで起こした二つの事件（「雪印乳業食中毒事件」「雪印食品牛肉偽装事件」）の本質的問題を常に認識し教訓とし、風化させないということと、食品を扱う会社の従業員として責任を強く認識し、果たしていくことを誓うため、毎年、二つの事件が発生した6月と、1月に実施しています。

具体的な活動として、本社での講演、品質に関する理解度テストの実施、食中毒事件当時の報道番組を編集したビデオを全員で視聴し、事件発生時の思いを直接経験していない社員と共有化する活動を実施しています。

小沼教授による講演（2010年6月）

阿南事務局長による講演（2011年1月）

小沼　博隆 氏
東海大学教授・医学博士
HACCPの専門家
企業倫理委員会　品質部会委員

阿南　久 氏
全国消費者団体連絡会事務局長
適格消費者団体・消費者機構日本副理事長

雪印メグミルクグループ行動規範、雪印メグミルク行動基準

雪印メグミルクグループ行動規範は、雪印メグミルク行動基準と雪印メグミルクグループの各社が持つ自主行動基準を統べるものとしてあります。雪印メグミルクグループの従業員は行動規範と自主行動基準を全ての活動の基本としています。

雪印メグミルクグループ行動規範

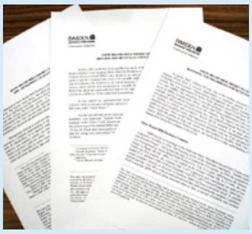
私たち、雪印メグミルクグループは、社会に対して果していくべき自らの責任を自覚し、社会とともに成長していくことができるように、以下の通り行動いたします。

1. 私たちを取りまく全ての人たちの気持ちを大切にし、誰からも信頼されるように行動します。
2. 品質管理を徹底し、安全で良質な商品・サービスを提供します。
3. コンプライアンスを徹底し、公正で透明性のある企業活動を行います。
4. 会社の財産および情報の保全・管理を徹底するとともに、第三者の権利を尊重します。
5. 企業活動を通じて、社会貢献と環境保全に取り組みます。
6. 自由と革新にあふれた企業風土を構築し、安全で働きがいのある職場環境をつくります。

Topics

米国企業倫理学会発　～雪印乳業（株）の取り組みについて～

雪印乳業（株）の企業再生と今後の課題をテーマとした論文が、米国を代表するビジネス・スクールの一つであるヴァージニア大学大学院DARDEN（ダーデン）ビジネス・スクールのジャーナル（2010年2月発行）に掲載されました。論文は、Jenny Meadダーデンビジネス・スクール院上級研究員、Regina.W.Wolf DePaul大学教授、Daryl Koehn St.Thomas大学教授、西藤輝日本経営倫理学会理事の共著で、雪印乳業（株）の取り組みは米国企業社会に対しても参考となる経営モデルであり、また次世代の企業経営を担う大学院生の良き教材として、討論題材に用いられているとのことです。



リスクマネジメント

商品事故の対応

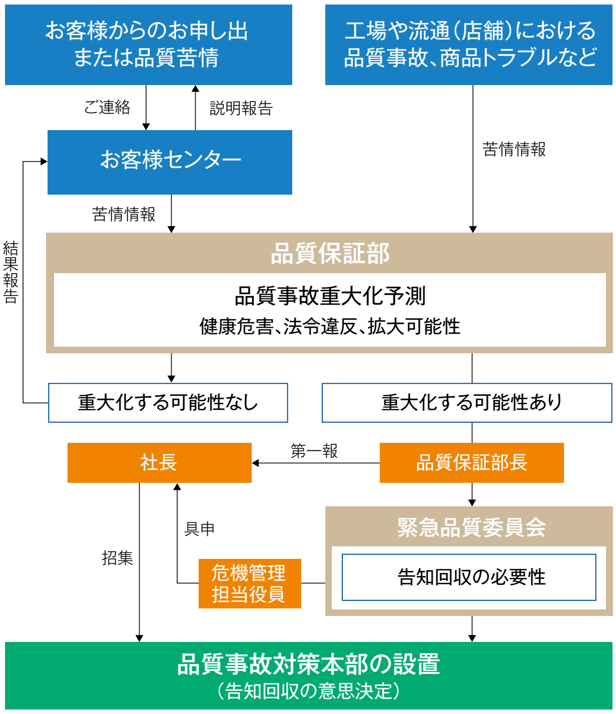
雪印メグミルク（株）は、商品事故に責任を持って対応するために、危機管理体制を構築しています。

日々のお客様からのお申し出は、お客様センターで一元化されます。

重大化が予測されるお申し出や工場、店舗からの情報は、品質保証部に集約されます。その情報の中に健康危害、法令違反、事故拡大など重大化する可能性があると判断された場合には、緊急品質委員会を開催します。

緊急品質委員会では、お客様の健康危害を最小限にとどめることを第一の目的とし、告知回収の必要性を検討します。その後、社長を委員長とする品質事故対策本部で告知回収の最終決定をします。

危機管理体制（品質事故対応）



内部通報制度

雪印メグミルクグループでは、グループ各社共用の社内通報相談窓口「雪印メグホットライン」と社外通報相談窓口「社外（弁護士）ホットライン」を併設しています。

2つのホットラインとも、公益通報以外の法令違反、社内規定違反や社会から非難を受ける恐れのある重大な行為が発生した場合だけでなく、業務上のちょっとした疑問・相談・提案なども制限を設けず受け付けています。

また、雪印メグミルクグループ各社では全ての通報者のプライバシー保護を徹底し、機会あるごとに「ホットライン」の活用を社内に呼びかけています。

内部通報件数

内容	会社名	2007		2008		2009上期		2009下期		2010上期		2010下期	
		社外	社内	社外	社内	社外	社内	社外	社内	社外	社内	社外	社内
人間関係について	日本ミルクコミュニティ（株）	3	3	2	1	0	1	1	9	0	8	0	2
	雪印乳業（株）	4	13	1	4	1	0						
品質について	日本ミルクコミュニティ（株）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	雪印乳業（株）	0	1	0	1	0	0						
風土改革について	日本ミルクコミュニティ（株）	0	2	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0
	雪印乳業（株）	0	0	0	0	0	0						
コンプライアンスについて	日本ミルクコミュニティ（株）	0	1	0	2	0	0	0	4	1	4	0	4
	雪印乳業（株）	2	4	4	4	2	2						
その他	日本ミルクコミュニティ（株）	1	0	4	0	0	0	1	4	1	5	1	11
	雪印乳業（株）	4	10	0	3	1	2						
合計	日本ミルクコミュニティ（株）	4	6	6	3	0	2	2	19	3	18	1	17
	雪印乳業（株）	10	28	5	12	4	4						

※2009年10月の経営統合で、雪印メグミルクグループとしての新たなホットライン体制となりました。

社外：社外（弁護士）ホットライン[社外通報相談窓口]
社内：雪印メグホットライン[グループ社内通報相談窓口]

特集

乳（ミルク）にこだわる

「乳」の新しい価値を創造し、お客様・消費者においしさと健康をお届けするために。

2010年4月に雪印メグミルクグループは、研究基盤を強化するため「ミルクサイエンス研究所」を新設しました。雪印メグミルクグループとして、ミルクの価値と可能性を追求していくうえでの研究所の役割と目指す方向性についてご紹介します。

ミルクサイエンス研究所のスタートとその背景

日本ミルクコミュニティ（株）と雪印乳業（株）の持株会社である雪印メグミルク（株）が、2009年10月1日に設立されました。このとき策定した「雪印メグミルクグループ中期経営計画（2009年度～2013年度）」では「研究開発力の強化」を、新総合乳業メーカーとして取り組む重点項目の一つとして挙げました。この目標の達成に向け、雪印乳業（株）の組織であった技術研究所は、雪印メグミルク（株）に移行し、2010年4月1日には、名称も新たに「ミルクサイエンス研究所」として再出発しました。

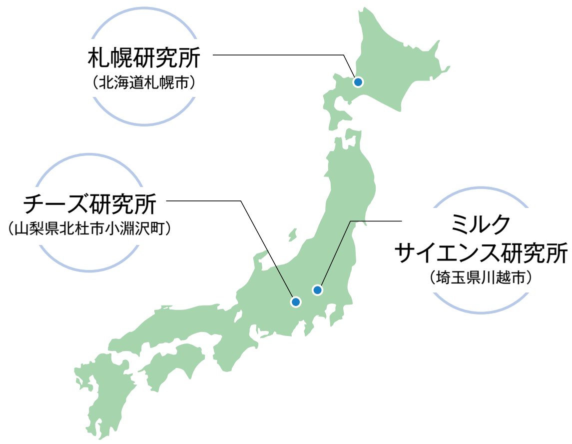
ミルクサイエンス研究所は、コーポレートスローガンである「未来は、ミルクの中にある。」を基に、「乳を極める」研究で世界に冠する研究所となるとともに、雪印メグミルクグループの「総合研究所」として事業推進の原動力となることを目指しています。これを達成するために、従来のチーズやバターなどの乳食品事業を中心とした研究に加え、牛乳や発酵乳、デザートなどの市乳事業を含めた、総合的な乳業分野における研究を推進しています。これにより統合・合併のシナジー効果を創出し、雪印メグミルクグループの事業成長につなげたいと考えています。

ミルクサイエンス研究所の役割について

ミルクサイエンス研究所は、埼玉県川越市にある研究所、北海道にある札幌研究所、山梨県小淵沢にあるチーズ研究所で構成されており、ミルクの価値と可能性を徹底的に追求した研究を行なっています。さらに、その成果を独自性のある新商品開発につなげることで、お客様・消費者においしさと健康をお届けすることを目指しています。川越市にある研究所では、乳酸菌、栄養、免疫などの基礎的な研究から、容器包装、官能評価等の応用的な研究まで、幅広く取り組んでいます。札幌研究所では、チーズ、バター、粉乳等に関する研究開発の他、北海道内の工場に対する技術支援も行なっています。また、チーズ研究所ではナチュラルチーズの製造方法の研究や製造技術の伝承に取り組んでいます。

ミルクサイエンス研究所は、独自の技術の集積により、新商品や差別化商品に役立つ独自技術等の研究成果を創出する役割を担っています。

さらに上述の分野のみならず、グループ企業各社の事業も技術的にサポートしています。例えば、雪印種苗（株）との取り組みでは、植物性乳酸菌およびその増殖因子を配合したシンバイオティクス製剤「こうし応援団」や、溶解性と栄養面での機能性を改良した新子牛用代用乳4品（「ゆきみるく」等）の開発を行ない、これらの商品の発売に貢献しています。



札幌研究所

チーズ研究所

川越研究開発棟

見出してきた様々なミルクの価値

　ミルクサイエンス研究所はこれまで乳にこだわった取り組みを行ない、様々な価値を見出してきましたが、ここでは、その一部についてご紹介いたします。

1 ミルク中の成分をもとにした機能性乳素材

1 MBP®

牛乳や母乳に含まれる、天然の微量タンパク質類を濃縮した素材です。最大の特徴は、骨をつくる骨芽細胞を増やし、骨を壊す破骨細胞のはたらきを調整する点にあります。

2 鉄ラクトフェリン

乳に含まれる微量なタンパク質であるラクトフェリンと鉄を独自の技術でブレンドした素材です。鉄味が抑えられている一方、体内への吸収性が高められています。

3 ミルクセラミドMC-5

セラミド骨格を持つ「スフィンゴミエリン」を濃縮した素材です。皮膚の保水性を高める効果があることを確認しています。

4 ホエイペプチドHW-3

風味の良いホエイタンパク質分解物です。水への溶解性に優れ、ペプチドに特有の苦味が抑えられているのが特徴です。

2 ミルクから作られる食品の健康機能

1 発酵乳

雪印メグミルク（株）保有の乳酸菌 *Lactobacills gasseri* SBT2055（ガセリ菌SP株[1]）を用いた発酵乳を摂取することで、内臓脂肪の蓄積を低減させることをヒト試験により確認しています。

2 チーズ

雪印メグミルク（株）保有の乳酸菌 *Lactobacillus helveticus* SBT2171（ヘルベティカス菌）を用いたチーズ中に、糖尿病や内臓脂肪蓄積の抑制、抗酸化作用に関与する成分が存在することを動物試験により確認しています。また、カマンベールやブルーチーズなどのカビ系チーズのガン細胞増殖抑制効果、抗酸化作用を細胞実験等で確認しています。

1 **SP株**：雪印メグミルク（株）が付けた菌株名称で「スノープロバイオティクス」の略称です。

今後、ミルクサイエンス研究所で取り組んでいくこと

　雪印メグミルク（株）は、ミルクにはまだ未知の可能性が含まれていると考えており、これからもその価値を引き出す取り組みを続けていきます。この思いをもとに、ミルクサイエンス研究所では、ミルクの可能性の追求、独自性の高い技術の確立、高付加価値商品の開発などを通じて、これからもお客様の食卓をおいしく、楽しく彩ることのできる商品を生み出していきます。また、限りある乳資源の有効利用に関する検討や、使い勝手や品質は維持したまま石油系樹脂などの使用量を減少できる容器包装の開発などにも注力し、乳にこだわり、乳・乳製品を取り巻く環境を意識した研究を続けていきたいと考えています。

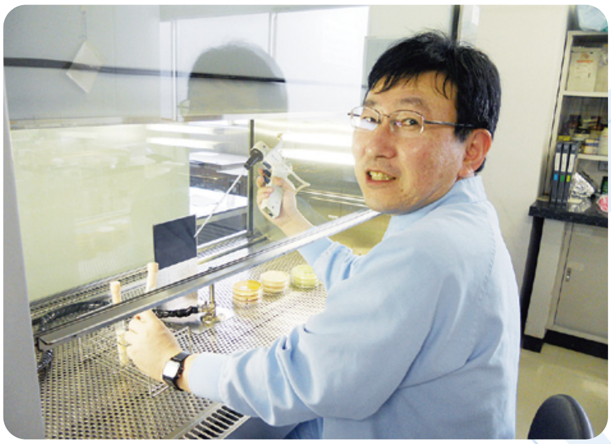
ミルクサイエンス研究所 所長　**吉岡 俊満**

特集

乳（ミルク）にこだわる

乳（ミルク）にこだわることが私たちの使命

雪印メグミルクグループは、企業理念を構成する私たちの使命の一つに「乳（ミルク）にこだわる」ことを定めています。その使命を果たすことでミルクの新しい価値を創造し、お客様においしい商品を提供するために、ミルクサイエンス研究所所員は、研究の現場で常に乳（ミルク）にこだわり、日々の業務に取り組んでいます。



新たな製品づくりに生かせるように、乳酸菌の研究に取り組んでいます。

乳酸菌は、チーズやヨーグルトなどの発酵乳製品を作るために欠かせません。ミルクサイエンス研究所ではこれまで多くの種類の乳酸菌を収集し、保管してきました。それらの乳酸菌の性質を研究し、製品に応用していくことが私の仕事です。ガセリ菌SP株やビフィズス菌SP株、ヘルベティカス菌なども研究所の保存菌株の中から見出されました。これらの有用菌をより多くの製品に生かせるように研究を進めるとともに、皆さんがびっくりするような新しい有用菌株を見つけていきたいです。

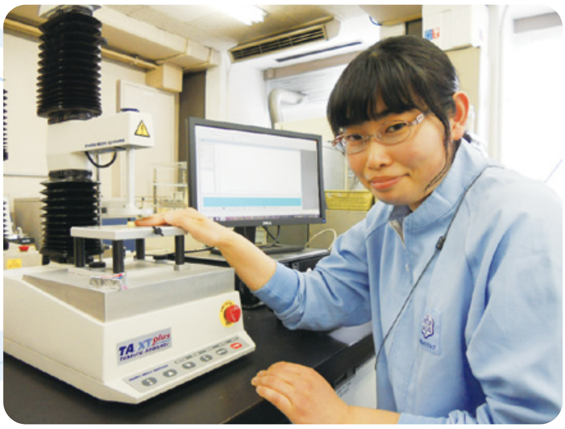
ミルクサイエンス研究所（川越）　主席研究員　**瀬戸 泰幸**

食感から、チーズの新しい「おいしさ」を目指しています。

私は現在、「食感」という切り口から、チーズのおいしさに関する研究に取り組んでいます。食感は味、香りとともにおいしさを決める重要な要素であり、日本語には400語以上もの食感表現があるといわれています。様々な食感をどのように評価、制御、創出するかを、チーズの特性や微細構造、ヒトの咀嚼（そしゃく）挙動などから多面的に検証しています。

その高い栄養価や多様性から、数千年もの長きにわたり豊かな食文化を育んできたチーズと、多彩な食感表現を持つ日本人の感性から、新しいおいしさの可能性にチャレンジしていきたいと思います。

ミルクサイエンス研究所（川越）　**金野 美紀**



容器包装でお客様の笑顔のある暮らしづくりに貢献します。

私たちは常にお客様の視点に立ち、3つの“やさしい”にこだわった容器設計を行なっています。一つ目は“おいしさにやさしい”です。乳（ミルク）は微生物、酸素、光、衝撃などの外的な要因を受けやすいデリケートな食品です。包装技術を活用することでミルクの優れた機能性の維持、向上に寄与します。二つ目は“環境にやさしい”です。持続可能な社会の構築に向け、包装資材の減容化や環境適性包材の探索などに取り組みます。三つ目は“人にやさしい”です。ユニバーサルデザインの考えに基づいた、安全で安心していただける商品を提供します。

ミルクサイエンス研究所（川越）　**朝日 卓治**

働きやすく環境に配慮した研究所づくりを目指しています。

私の仕事は、ミルクサイエンス研究所内の電気、ボイラー、冷暖房等のユーティリティ設備の管理、保全を行なうだけでなく、研究や開発業務に不可欠な機器の製作等、快適に業務が行なえるようにサポートすることです。省エネ活動においては、私の職場が中心となり推進しなければならないと考えています。今後も機器の効率化や省エネ化を図り、働きやすく環境に配慮した研究所を目指したいと思います。

ミルクサイエンス研究所（川越）　**松平 裕樹**

安全でおいしい商品の提供のため、ナチュラルチーズの研究開発から道内工場のフォローまで担当しています。

札幌研究所では、道内工場と協力して進める研究や商品開発が多くあります。取り掛かりとして、まずチームでアイデアを出し、方針を決めます。その後、基礎データを積み、小規模試作を実施します。試作は全て手作業のため、根本からチーズ作りを捉えられます。毎回表情を変えるチーズには振り回されますが、乳がチーズに変わる姿は楽しみであり、やりがいです。試作品完成後は工場にて量産化を検討。製造したチーズは風味や微生物検査、機器分析を行ない品質を確認します。こうして、皆が納得した製品が"商品"となってお客様に届く日を夢見て日々努力しています。

札幌研究所　**佐野 友美**

日本人の嗜好に合った、こだわりのナチュラルチーズの開発に取り組んでいます。

チーズ研究所は、これまでに雪印メグミルク（株）がチーズ80年の歴史で培ってきたナチュラルチーズの製造技術を蓄積し、その技術を応用発展させて商品開発を行なってきました。ミルクタンパク質の物性にこだわった「さけるチーズ」、ミルク由来の乳酸菌にこだわった「芳醇ゴーダ」も他の研究所と連携しながら、当所で試作を重ねて開発した商品です。また、小規模生産のナチュラルチーズを販売してお客様のご意見を商品開発に反映させています。今後とも日本人の嗜好を把握し、ミルクのおいしさをさらに引き出したこだわりのナチュラルチーズを開発してまいります。

チーズ研究所　主席研究員　**佐々木 正弘**

ミルクサイエンス研究所では母乳や育児用粉乳を飲めないお子様のための特殊ミルクも作っています。

ミルクサイエンス研究所では、粉ミルクも作っています。生まれながらにして栄養素の一部を正しく体内に取り込めないお子様がいらっしゃいますので、そのための特殊な粉ミルクを製造、供給をしています。特殊ミルクを飲んでしっかりと栄養管理をしていただければ、すくすくと成長されます。このように社会に役立っていると思うことが、私たちの仕事の励みです。一般にはほとんどお目にかかることはないミルクですが、他の雪印メグミルクマークがついた商品を召し上がられるときにでも、「雪印メグミルクはそんなこともやっているのか」と思っていただければ、大変うれしいです。

ミルクサイエンス研究所（川越）　特殊ミルク開発室　課長　**田中 真樹**

安全で安心していただける商品をお届けするために

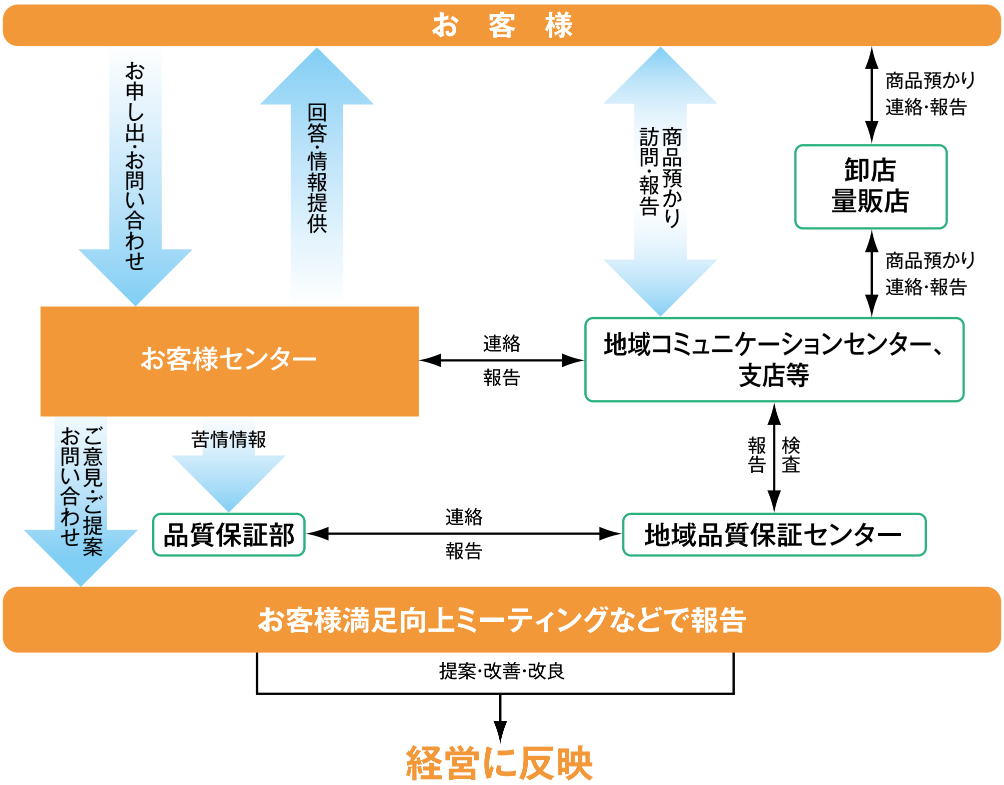
迅速で正確な情報を発信していくことはもちろん、お客様・消費者の「声」を謙虚に聞き、消費者重視経営を推進していきます。また、独自の品質管理システムを構築し、安全で安心していただける商品をお届けしていきます。

お客様のお申し出に迅速かつ適切にお応えするために
— お客様センター —

雪印メグミルクグループでは、お客様の声をお受けする「お客様センター」を開設し、電話・メール・手紙などでのお問い合わせに対して「正確・迅速・丁寧」に対応していくことを第一に考えています。また、いただきました貴重なご意見は、社内へフィードバックし、より良い商品の提供へ役立てています。

商品検査が必要なお申し出をいただいたときは、社内の関連部署と連携のもと、迅速な原因の特定から対応まで、お客様へご報告を行なっています。

お客様センターの対応の流れ



お客様との対話を大事にします — お客様モニター制度 —

「お客様モニター」制度は、応募により選ばれた首都圏・近畿圏の消費者の方々から雪印メグミルクグループの活動について意見をいただく場として実施しています。

「消費者基本法」を根幹に置き、雪印メグミルクグループの消費者重視経営にある「4つの姿勢」と「7つの取り組み」の一つとしてお客様・消費者の声を傾聴し、企業活動に反映させることを目的に実施しています。

お客様から大切なご意見をいただいています

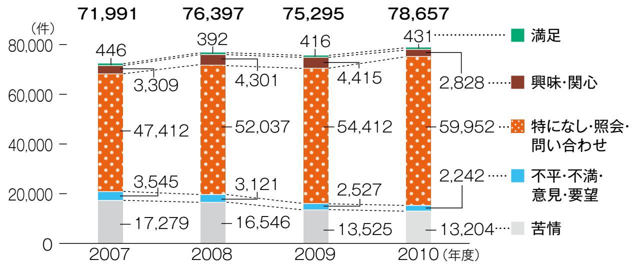
私のチャレンジ!

北海道のなまらうまいLL牛乳を世界に届けるべやー!!

雪印メグミルク(株)
札幌工場 製造一課 LL製造
佐藤 未佳(左) 宮崎 正光(右)

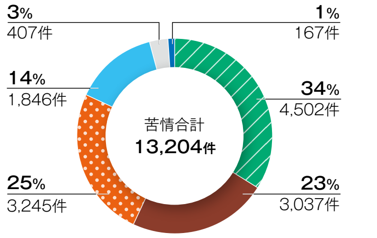
お客様センターの受付件数

❶2007～2010年度の受付件数



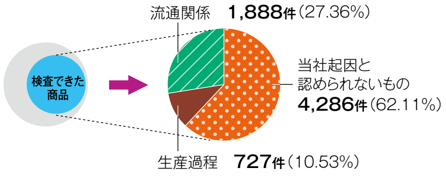
- 満足：満足している
- 興味･関心：宅配申し込み、サンプルや資料の請求など
- 特になし･照会･問い合わせ：一般的な問い合わせ（商品情報、取扱店、ギフト券交換など）
- 不平･不満･意見･要望：購入商品が賞味期限間近、価格が高い、その他商品に対する意見要望
- 苦情：商品･サービスなどに対するお客様の不満足、訪問･検査などの対応が必要な商品苦情

❷2010年度の受付件数の中での「苦情」の内訳



- 風味･組織：苦い、甘い、塩辛い、固化、離水、溶けている、カビが生えた、ホイップできないなど
- 異物混入：毛、ビニール、繊維、虫が入っていたなど
- 容器･デザイン：漏れ、破損、包装不良、開けにくい、表示が見にくいなど
- 流通･販売：売っていない、賞味期限切れ購入、宅配店の対応苦情など
- 内容量･数量：量が少ない、入り数が足りない、添付物がないなど
- その他

❸お客様苦情のうち、ご協力をいただいて検査ができた商品の起因別割合



2010年度の苦情件数13,204件のうち、ご協力を得られた6,901件について検査を実施しました。その検査結果から、起因の推定を行ない、商品の設計や工程の改善に役立てています。

2010年度の特徴

総入電数は、2009年度比で約4%（3,362件）増加しました。主な増加理由は、資金決済法に関係するギフト券交換、および3月11日に発生した東日本大震災の影響による問い合わせなどによるものです。その他の項目は減少しています。

［増加した要因］
口蹄疫報道による、宮崎県生乳に関する問い合わせが増加（5月）。
猛暑の影響等により「風味･組織」「容器の漏れ」などの苦情が増加（7月～9月）。
金券報道による、ギフト券の問い合わせが増加（12月）。
トランス脂肪酸報道による、問い合わせが増加（12月）。
震災の影響による「放射能」「地震の影響」「製造の有無」「販売の有無」「取扱店照会」などの増加（3月）。

お客様の声を傾聴し商品･サービスに活かします ― お客様満足向上ミーティング ―

お客様の声を活かした商品の改良･改善を目的として、雪印メグミルク（株）では「お客様満足向上ミーティング」を開催しています。これは2010年度まで行なわれた日本ミルクコミュニティ（株）の「お客様の声実現会議」、雪印乳業（株）の「CS向上ミーティング」を統合し、継承したものです。

お客様から寄せられたご意見･ご要望については、お客様センターを通じて商品開発･販売担当者などへ伝えており、2010年度は改善が決定したものが14件、今後、継続して検討していくものが64件となりました。その結果についてはホームページ等でお知らせしています。

お客様センターを通じて寄せられたご意見･ご要望については、貴重な経営資源として位置付けており、「お客様満足向上ミーティング」の内容は「企業倫理委員会（P17）」「取締役会」で報告されています。

Web　CS向上レポートは、ホームページに掲載し下記のアドレスからアクセスできます。
http://www.meg-snow.com/customer/center/

Web　お客様の声を活かした商品の改善事例は、下記のアドレスからアクセスできます。
http://www.meg-snow.com/customer/center/voice/

お客様センターに寄せられた声から商品改良に活かした例をホームページに掲載しています

私のチャレンジ!

みんなで力を合わせれば、できないことはありません。

雪印メグミルク（株）磯分内工場
バター職場 藤澤 朋樹（左）
粉乳職場 竹島 祥貴（中央）
総務課 大島 史成（右）

安全で安心していただける商品をお届けするために

1 **ISO9001**
組織内で品質保証に取り組むための体制づくりに関する国際規格。

2 **HACCP**
(Hazard Analysis and Critical Control Point)
出荷の工程であらかじめ危害を予測し、防止するための重要管理点を特定してそのポイントを継続的に監視・記録し、異常が認められたらすぐに対策を取り解決するシステムです。

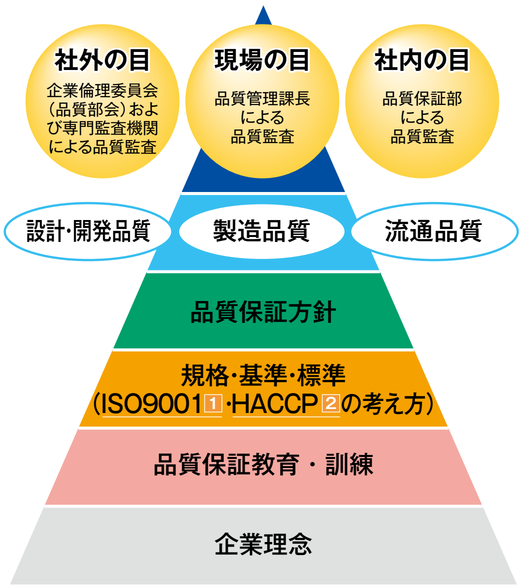
「三つの目」による品質チェック
— 雪印メグミルク品質保証システム［MSQS］—

雪印メグミルク（株）は、お客様・消費者の方々へ安全で安心していただける商品を提供していくことはもちろん、お客様・消費者の声を謙虚に聞き、反映することにより消費者重視の経営を推進し、信頼していただける品質の実現を目指します。

品質保証方針として、4つの項目を定めました。

❶消費者を重視した品質保証体制のもと、法令・社内基準を遵守し、安全で安心していただける商品を提供します。
❷適切な情報を提供し、消費者の信頼にお応えします。
❸消費者の声を傾聴して、満足していただける品質を追求します。
❹危機管理体制を整備し、迅速、適切に対応します。

雪印メグミルク品質保証システム（MSQS）のもと、お届けする商品の設計・開発から原材料の調達・生産・物流・販売までの過程で品質を管理・保証しています。また、品質保証システムが適正かつ有効に機能しているかを確認・検証するために、現場、社内、社外の3段階でチェックを行なって、品質保証システムを改善し強化を図ります。

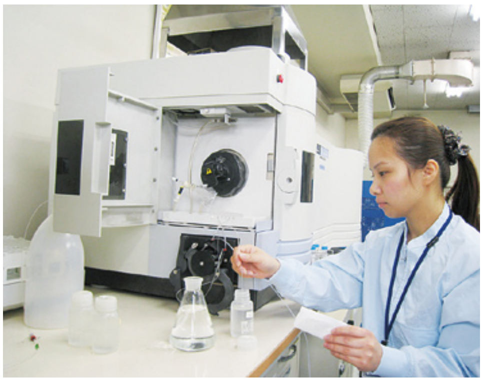


MSQSの概念
（MEGMILK SNOW BRAND Quality Assurance System）

規格外は見逃しません — 分析センター —

分析センターでは、原材料の安全性確認や新商品の賞味期限設定のための保存試験および製品の品質確認などを中心とした検査分析を担当しています。その検査項目は栄養成分（タンパク質、ミネラル、ビタミン等）に関するものや安全性確認（化学汚染物質、食品添加物、微生物等）に関するものなど約500項目になります。また、信頼の得られる検査を行なうために、2002年に国際的な認証制度であるISO／IEC17025を国内の食品会社の試験所としては初めて取得しました。

この認証制度の考え方は工場の品質管理課にも適用しており、出荷検査担当者への教育訓練や技術指導などを通じて全社的な検査技術の確保につなげています。これらの活動を通して、商品の品質と安全性を総合的に保証しています。


安全性を確認するために各種機器分析を実施しています

私のチャレンジ!

生乳を取り扱う者として、北海道生乳取扱認定技術員に認定されるよう努力していきます。

雪印メグミルク（株）
札幌工場 製造一課 笹村 啓介

食の安全に貢献したい — 食品衛生研究所 —

食品衛生研究所は、食の安全に関する研究活動を通じた社会貢献を目的に2001年3月1日に設立されました。これまでに衛生微生物に関する研究を積み重ね、研究成果の社外発表や公的機関における衛生研究への協力を行なってきました。その研究成果の一つとして、微生物検査キットを商品化しています。

また、HACCPの考え方に基づいて生産工場における製造環境の調査や工程の危害分析を行ない、安全な製品作りに貢献しています。

さらに食品衛生の意識を高めるため、製造に携わる従業員を対象とした研修を毎年実施しています。

これらの活動を通じて、今後も雪印メグミルクグループの品質保証に取り組みます。

商品の安全を担っていく大切な仕事です

なかしべつ工場における取り組み — 北海道HACCP認証取得 —

2010年9月30日、なかしべつ工場の「ゴーダチーズ」、「チェダーチーズ」、「モッツァレラチーズ」が北海道HACCP自主衛生管理認証制度で、最高ランクである「段階8」での認証を取得しました。

なかしべつ工場では、雪印メグミルク(株)が培ってきた伝統的技術を用い、最新の製造設備でチーズを製造しています。北海道HACCP認証取得の取り組みは、現在の工程を評価調書を用いて客観的に評価し、継続的改善を実施していく上で、良い機会となりました。今後も安全で安心していただける、おいしいチーズをつくり続けていきます。

なかしべつ自慢のゴーダチーズです

認証書と認証取得したなかしべつ工場の従業員

取得した「北海道HACCP自主衛生管理認定書」

Voice »»

さらなる食の安全・安心に向けて取り組んでいきます

食品の製造をしている我々の責務は、食の安全についての知識を身につけ、実行に移していくことです。今回の認証がゴールでなく、新たなるスタートであり、さらに食の安全性を高める活動を推し進めていきます。

なかしべつ工場 製造課　磯貝 直也

私のチャレンジ!

ミルクの魅力を見つけたり、伝えたり、つくり出せるような人材を目指しています!

雪印メグミルク(株) 関西チーズ工場
吉村 洋美(左) 横山 晴紀(右)
黒田 弥里(中央)

「酪農生産への貢献」のために

酪農生産者の良きパートナーとして信頼関係を深め、酪農の健全な発展に寄与し、「生産者の想い」にお応えすることで酪農生産へさらに貢献していきます。

酪農生産者の実践研究活動を継続的に支援しています

— 日本酪農青年研究連盟（酪青研）—

2010年11月16日、本社大会議室に全国から酪青研会員酪農家が集い、平成23年度定期総会が開催され、酪農生産における実践研究の取り組みが協議されました。国内では10年来の発生となった口蹄疫の感染拡大に過酷な猛暑が追い討ちをかけ、わが国の酪農生産は大きな打撃を受けましたが、自らが活路を切り拓こうと、その活動の活性化がうたわれました。

引き続き「2010口蹄疫禍を教訓としたバイオセキュリティ」を主題に研修会が開催され、「家畜伝染病衛生対策の現状」「口蹄疫の現場体験から見た防疫体制について」の各テーマに沿って知識を深め、実践活動への一助としました。事務局を務める雪印メグミルク（株）（酪農総合研究所・酪農部）・雪印種苗（株）・八ヶ岳乳業（株）は、これらの運営を担い活動の活性化を支援しています。

平成23年度定期総会

日本酪農青年研究連盟（酪青研）とは

戦後間もない1948年に北海道の若き酪農家達から始まった酪農の実践研究団体で、現在では約2千人の酪農家を会員に擁し全国的に活動を展開しています。雪印メグミルクグループは発足当時からその事務局を務め、継続的に活動を支援しています。

研究目標

単研活動1・研究活動を基本とし、時代と地域に融合した豊かな生活とゆとりある経営の確立

実践事項

1. 情報化社会に適応できる経営者能力の涵養2
2. 消費者ニーズに呼応し、国際化社会に対応できる乳・肉の生産
3. 地域社会に密着した生活の充実と、相談し合える仲間作り
4. 環境にやさしいエコ酪農への取り組み

Web 詳細は下記よりご覧いただけます。
酪青研HP http://www.rakuseiken.com/

「酪農生産への貢献」の推進役として — 酪農総合研究所 —

酪農総合研究所（酪総研）は、雪印メグミルクグループの企業理念の使命の一つである「酪農生産への貢献」の推進役として活動しており、主に国内の自給飼料生産拡大とその利用の推進や持続的酪農経営のための調査研究等を行なっています。

2011年2月には情報発信事業の一環として「酪農現場におけるバイオセキュリティ～予防とリスク低減のために!!～」をテーマに、札幌にてシンポジウムを開催しました。全国各地から約200名の参加をいただき、専門有識者からの話題提供と意見交換を行ない、グローバル化、ボーダレス化の進展により国境を越えた家畜感染症の増加が懸念される中、改めて防疫体制強化の重要性についての意識付けがなされました。これからもこのような場を通して、情報提供をしていきます。

平成22年度酪総研シンポジウム

Web 詳細は下記よりご覧いただけます。
酪総研HP http://www.rakusouken.net/

酪総研選書No.91『目で見る牧草と草地』［最新版］発刊

1999年に発刊した『目で見る牧草と草地』について、このたび全面的な改訂作業を行ない、加えて新しい技術などについても増補し、［最新版］としてこの3月末に発刊しました。
新たな「酪肉近代化基本方針」においても自給飼料のさらなる生産強化がうたわれており、その一助としてご活用いただき、力強い酪農生産基盤の確立にお役立ていただければ幸いです。

1 単研活動
単位研究会活動の略。地域に根付いた活動。

2 涵養（かんよう）
水が自然にしみこむように、少しずつ養い育てること。

私のチャレンジ!

自動販売機・冷蔵庫・冷凍庫の販売・保守を通してグループの発展に貢献していきたいです。

MCビジネスサポート（株）
芦田 淳

第2回酪農諮問委員会を開催

2010年10月6日に第2回酪農諮問委員会3が開催されました。今回の酪農諮問委員会は、「2010年7月に農水省から公表された酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針（酪肉近）における雪印メグミルクグループの果たすべき役割」、および「酪農総合研究所の現状の取組みと中期経営計画に向けた課題に対する方向性について」の2課題について協議をお願いしました。委員の方々からは「酪肉近とわが国酪農政策の方向」「民主党農政と農政ビジョン」「多様で持続的な発展のための制度政策とは」などの資料を提示いただき、ご意見・ご助言をいただきました。酪総研の取り組みについては、日本全体を見渡した研究やグループ力を発揮して自給飼料作物の管理向上に関する研究および成果の普及などを行なうようにとのご意見・ご助言をいただきました。

酪農諮問委員会 委員一覧 ➔ P51

第2回酪農諮問委員会

3 酪農諮問委員会
2009年10月の経営統合に伴い、酪農生産者の声を経営に活かすために、雪印メグミルクグループの「酪農生産への貢献」に向けた取り組みの一つとして設置しています。

北海道での酪農振興への貢献

北海道包括連携協定

2007年10月、雪印乳業（株）、雪印種苗（株）、（株）雪印パーラーは、北海道と包括連携協定を締結し、酪農振興への貢献および乳製品製造で培った技術を活かし、「食」を中心とする様々な分野で創業の地、北海道の経済活性化への寄与を目指しています。

また、2010年3月の経営統合により雪印メグミルクグループと北海道との包括連携協定に衣替えし、雪印メグミルクグループでの取り組みへと発展させています。

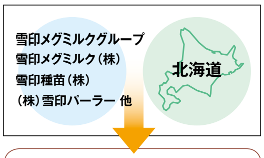
技術の伝承 ―おいしいナチュラルチーズ作りを伝えていくために―

雪印メグミルクグループは北海道と協働して、ナチュラルチーズに関する研修を毎年実施しています。2010年度は、ナチュラルチーズ製造に関する意識の向上、専門的技術を有する製造者の養成、技術・知識の共有化などを目的として、「基礎講習」「製造実習」および「地域交流研修」を開催しました。「基礎講習」では、“衛生管理とチーズ製造方法”を題材にした講習を北海道庁で実施し、「製造実習」では専門的な品質管理・製造技術を習得する目的でチェダーチーズの試作をチーズ研究所にて行ないました。また、新たな取り組みとして開講した「地域交流研修」では研修生からの要望の高かった“チーズの風味と品質評価”について講習を行ない、さらに“先駆的なチーズ工房経営者との意見交換”により地域工房間における“横の繋がり”を醸成することで、地域における技術・知識の共有化を図りました。

今後も北海道の酪農基盤の強化と酪農・乳業の発展に貢献すべく、この取り組みを継続していきます。

おいしいチーズ作りを伝承していきます

雪印メグミルクグループと北海道との包括連携協定



具体的な取り組み内容

1. 「酪農」の振興に関する事項
2. 「食」の安全・安心、産消協働※に関する事項
3. 子育てや健康づくりに関する事項
4. 北海道の魅力ある「観光」の振興に関する事項
5. その他、二者間で必要と認められる事項

※「産消協働」とは、地域の「消費者」と「生産者」が連携し、地元の資源や生産物を地元で消費・活用することにより、域内循環（人、もの、お金の流れ）を高めて地域経済の活性化を図ろうという運動です。

私のチャレンジ!

フィールドスタッフとして、雪印メグミルクグループ商品の拡売に積極的に取り組んでいます。

（株）YBS
ビジネス支援事業部
西村 智子

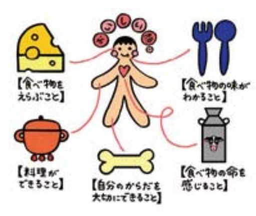
「食」の大切さと尊さを伝えるために

**乳からもたらされる力を「食の大切さと尊さ」につなげ、笑顔あふれる食生活を応援していきます。
また食を通じたコミュニケーションを大事にすることで、社会からの要請にも的確に応えていきます。**

5つの大切なこと

食育は、栄養に関する知識だけを学ぶことではありません。豊かな自然からいただく命の恵みの尊さを感じ、それを五感で味わう感性を養う、「食の大切さと尊さ」を学ぶことです。雪印メグミルクグループでは、そのためには次の5つが大切なポイントと考えています。

- 食べ物をえらぶこと
- 食べ物の味がわかること
- 料理ができること
- 自分のからだを大切にできること
- 食べ物の命を感じること



「食の大切さと尊さ」と「牛乳・乳製品の価値」を伝えるために

雪印メグミルクグループの食育・普及活動は、2010年から「乳の食育 雪印メグミルク 食コミュニティ」として、グループ一体となった活動をスタートしました。

「食の大切さと尊さ」「牛乳・乳製品の価値」を子どもたちやお客様・消費者に直接触れ合う中でしっかりお伝えし、雪印メグミルクグループのCSR経営の基盤として、消費者重視経営を実践していきます。

「乳の食育」を通じて伝えたいこと

[食の大切さと尊さ]

食べることは私たちにとって極めて大切であること。

特に、バランスのよい食事を摂り、自分の身体を大切にするなど「5つの大切なこと」を育み実践していくことが大切であること。

食べものは自然の恩恵を受けた尊い資源であること。

すべての食べものは自然からの恩恵であり、ほかの生き物の尊い命をいただいて自分たちの生を繋いでいるということ。

[牛乳・乳製品の価値]

牛乳・乳製品は、日本人に不足している主な栄養素であるカルシウムを効果的に補う食品であること。

さらに、牛乳・乳製品は「豊かな栄養価」や「おいしさ」を持ち、消費者の方々の豊かな食生活や健康づくりに貢献することができる大切な食べものであること。

そして、牛乳・乳製品は、乳牛の“命の恵み”を原料として「牧場（酪農）」や「工場（製造工程、品質管理）」などの現場を経て、消費者に届けられる尊い食べものであること。

牛乳好きでいて欲しい ― 小中学校への出前授業 ―

「牛乳のおはなし」を小学校低・中学年用プログラムとして、「骨の成長に大切なことを考えよう」を小学校高学年向けプログラムとして「なぜ毎日給食に牛乳がでるのか?」、「今がまさに骨の成長に大切な時期であること」を学習の狙いとして児童・生徒の皆様にわかりやすくお伝えしています。2010年度は、全国の小中学校164校、372クラス、13,620人の児童・生徒等を対象に出前授業を行ないました。

実施校一覧 ➔ P51

小学校での出前授業

ちびっこシェフが大活躍 ― 料理講習会 ―

料理をすることは、「食」の大切さを知るだけでなく、人とのコミュニケーションを深めることにもつながり、特に最近は親子向けの料理講習会の人気が高まっています。雪印メグミルクグループの料理講習会では、おいしく、そして手軽に牛乳・乳製品の利用方法をお伝えし、人々の健康やおいしく楽しい食卓、家族のコミュニケーションづくりに貢献します。2010年度は、全国で8,170名の方にご参加いただきました。

親子料理講習会

子供料理講習会

私のチャレンジ!

より良い製品を生産するとともに、工場周辺の環境向上にも貢献するぞ!

雪印メグミルク（株）京都工場
池上製造所 工務二課 織田 武二

楽しみ、学ぶ! — セミナーの開催 —

牛乳・乳製品の価値をお伝えするため、「牛乳・乳製品セミナー」「骨・カルシウムセミナー」「チーズセミナー」「チーズを美味しく楽しむ会」など、お客様のニーズに合わせ、様々なセミナーを行なっています。牛乳・乳製品の持つ栄養や健康価値、おいしさや楽しさをこれらのセミナーを通じてお伝えしています。

チーズを美味しく楽しむ会

骨・カルシウムセミナー

「史料館」から「酪農と乳の歴史館」へ

札幌にある「酪農と乳の歴史館」では、酪農・乳業に関する様々な史料（実際に使っていた機器類や商品パッケージ、文献や資料）を展示しており、酪農と乳業の歴史の一端を垣間見ることができます。雪印乳業史料館として1977年に落成、34年間で360万人以上のご来館をいただいており、また、2004年には、北海道遺産構想推進協議会により「北海道遺産」に選定されています。2010年度は23,466名の方にご見学いただきました。

2011年4月、合併に伴い、雪印メグミルク「酪農と乳の歴史館」に名称を変更しました。日本の酪農と乳業についてさらにご理解を深めていただけるよう、今後も展示やご案内の充実を図っていきます。

見学が可能な工場・歴史館一覧 ➔ P52

館長の案内に
興味津々のお客様

「酪農と乳の歴史館」外観

「百聞は一見にしかず」 — 工場見学の実施 —

雪印メグミルク（株）では、牛乳やヨーグルト、チーズなどがどのように作られ、皆様の食卓に届くかを知っていただくことを目的として、工場見学を行なっています。

商品の製造工程、品質管理や衛生管理などを製造現場の見学にてご覧いただき、工場での環境活動や流通の仕組みをパネル展示などでご紹介しています。2010年度は、近隣のご家族や小学校の社会科見学等を中心に、57,990名の方にご来場いただきました。

野田工場を
見学中のお客様

神戸工場の見学コース

北海道興部（おこっぺ）高校での地域食育授業

2010年度で第4回目となる興部高校の地域連携授業を、今年度は2年生を対象に3月15日と16日に実施しました。今回のテーマは「チーズのはなし」と題し、札幌研究所の大久保所長を講師として、「チーズ製造の科学」の講義やチーズを実際に作り、皆さんで食べ比べてチーズのことについてより理解を深めていただきました。

講義およびチーズ作り実習を受けた高校生の感想

- 牛乳は加工次第で色々なものを作ることが出来るので万能だと思った。
- チーズの作り方一つで色んな種類が出来ると知った。
- 手作りチーズの味はどうすればおいしくなるかを知りたい。ゴーダチーズがおいしかった。

私のチャレンジ!

誰からも「たよれる男」になれるよう日々努力です!

雪印メグミルク（株）
札幌工場 大島 千周

地域・社会への貢献

食を通じた社会貢献とともに、「良き企業市民」として地域の方々とコミュニケーションをとり、その期待に応えていくことのできる社会貢献活動を推進していきます。

グループ会社の取り組み

会社見学の受け入れ
●チェスコ（株）

2010年6月に吹田市立東山田小学校の2年生32名の生徒さんが、見学に来場され、冷蔵庫に入って低温を実感するなど、普段は触れることのないことを体験していただきました。

牛乳祭り
●八ヶ岳乳業（株）

「八ヶ岳乳業牛乳祭り」は、地域の皆様に親しまれる企業を目指して、2001年度より毎年開催しています。毎回多くのお客様のご来場をいただき、2010年に節目の10回を迎えることができました。回を重ねるごとに、少しずつ内容は変化していますが、お客様の声を直に伺える機会としての意義は変わっていません。これからも地域に根差した企業として、お客様の声を大事に安全な商品作りを続けていきます。

世界に羽ばたけ若きジャンパー ― 冬季スポーツ振興への支援 ―

雪印メグミルク（株）は、様々なスキージャンプ大会に協賛し、冬季スポーツの振興を支援しています。特に2011年1月3日（月）に札幌宮の森ジャンプ競技場で開催された「雪印メグミルク杯全日本ジャンプ大会」には、国内トップクラスの選手（成年組）に加えて、高校生（少年組）、中学生（ジュニア組）、女子組など幅広い競技者が参加しました。

これまで、雪印メグミルク杯（旧雪印杯）で好成績を収め、世界に羽ばたいていった選手も多く、「若手ジャンパーの登竜門」として重視されてきた競技会です。

雪印メグミルク（株）は、思いきりのよいジャンプをした男女中学生ジャンパーに特別奨励賞を贈り、またジャンプスポーツ少年団の子どもたちを会場に招待するなど、将来のジャンパー育成の一助となることで、ウインタースポーツの振興を応援しています。

あこがれの選手たちと一緒に記念撮影をする少年団のみなさん

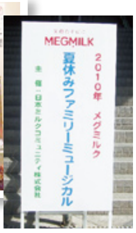
特別奨励賞、将来の活躍に期待します

子どもたちのはじける笑顔をお届けします
― 「メグミルク夏休みファミリーミュージカル」の開催 ―

2010年8月4日に、関西地区では毎年夏休みの恒例行事になっている「メグミルク夏休みファミリーミュージカル」を開催しました。

これは、夏休みの1日を親子で楽しく過ごしていただくだけではなく、子どもたちに友達を大切にするやさしい心を育んでほしいとの願いから開催しているイベントです。第1部「ファミリーコンサート」、第2部「オリジナルミュージカル」とも、子どもたちは出演者と一緒になって大いに盛り上がり、夢と感動のステージとなりました。

出演者と一緒にハイ、ポーズ!



元気で華麗な演技を応援します ― 「全国こどもチャレンジカップ」への協賛 ―

「全国こどもチャレンジカップ」は、日本こどもフィットネス協会主催のジュニアエアロビックの大会です。日本ミルクコミュニティ（株）は、日本こどもフィットネス協会とともに、文部科学省と「早寝早起き朝ごはん全国協議会」が推進する「早寝早起き朝ごはん」国民運動を応援しており、7月に神奈川県で行なわれた「第5回全国大会」に協賛しました。

全国大会には、地区大会の入賞選手1,058名が参加し、華麗な演技が披露され、スポーツ後の疲れを癒すための、メグミルク牛乳の無料配付や、牛乳紙パック工作の展示を行ないました。

全国大会に参加した選手たちの華麗な演技

私のチャレンジ!

赤ちゃんとお母様によりお役に立てるよう、栄養指導も日々進化させていきます。

ビーンスターク・スノー（株）
中部支店 松木 直美

豪快シュートでゴールを目指せ
— 第8回「メグミルクカップジュニアサッカー大会」の開催 —

第8回「メグミルクカップジュニアサッカー大会」を日本ミルクコミュニティ(株)首都圏北支店主催、川越工場共催で、2010年9月に埼玉県狭山市で開催しました。地元狭山市をはじめ川越市、入間市、飯能市のジュニアサッカーチーム(小学6年生以下)が参加し、選手および応援のご家族等を含めると約800人が集まり大盛況となりました。厳しい暑さの中、選手たちは、メグミルク牛乳やドール100%ジュースで水分を補給し、元気いっぱいにピッチに戻る姿が印象的でした。

試合の合間に、メグミルク商品でほっとひと息

おいしい給食のお手伝いをしています
— 足立区「おいしい給食まつり」への参加 —

2010年10月に開催された足立区「おいしい給食まつり」に参加しました。足立区は「おいしい給食日本一」を目指すほど、学校給食に力を入れている区です。

可能な限り国産の材料を使用、学校ごとの調理、化学調味料や加工品を極力避けるなど、安全で食べておいしい給食に向けて取り組んでいます。メグミルク牛乳を組み合わせた給食の展示や「牛乳ができるまで」のパネル展示などで、給食に欠かせない牛乳の大切さを紹介し、さらに「バター作り教室」を実施しました。生クリームがみるみるバターになっていく様子に、会場は子どもたちの大きな歓声に包まれました。

会場に展示された、学校給食のメニュー

グループ会社との協力で盛り上げました
— 千葉県「野田市産業祭」への参加 —

野田工場は、同じ千葉県内に研究所を持つ雪印種苗(株)とタイアップして、2010年10月に第38回野田市産業祭に参加しました。地元の企業として、野田市の無料送迎バスによる工場見学会やメイン会場での企業展示会・即売会を行ない、また雪印種苗(株)は、メグミルク牛乳の紙パックで栽培した野菜の展示や、野田工場に来場された方への野菜の種の配付を行ないました。両社のタイアップは、今回が初めてとなりますが、今後はさらにグループとしての結束を強めていきたいと考えています。

雪印種苗(株)研究農場で栽培された、紙パック菜園

グループ会社の取り組み

社会人講師活用型教育支援プロジェクトに参加
●雪印種苗(株)

将来の産業を担う子どもたちの理科離れを食い止めることを目的とした経済産業省「社会人講師活用型教育支援プロジェクト」の中の「北海道サイエンスキッズアカデミー」に参加、地元企業として講師を派遣しました。2010年度は札幌市内2校の5年生に、生き物の命が受けつがれる意味と品種改良の仕組みを解説しました。子どもたちからは「理科が好きになった」「将来は品種改良の仕事がしたい」など、多くの前向きな反応がありました。

京都府くみやまマラソンへの協賛

皆様方に体に良い商品とマラソンを通じて、より健康な体づくりに貢献したいという思いから、地域のマラソンイベントに積極的に協賛しています。
「京都府くみやまマラソン」は、参加者2,200名と大きな大会で、大会を彩る横断幕やノボリでランナーを盛り上げ、無事ゴールをしたランナーには牛乳をお配りし、のどを潤していただきました。

私のチャレンジ!

お取引先様との「絆」を大切に、さらなるご発展に貢献できるよう活動していきます。

ビーンスターク・スノー(株)
中部支店 与風 純

働きがいのある会社の実現のために

従業員一人ひとりが自らの成長を実感して働きがいを感じられることが会社の発展につながっていると考え、その実現を目指して様々な施策を展開していきます。

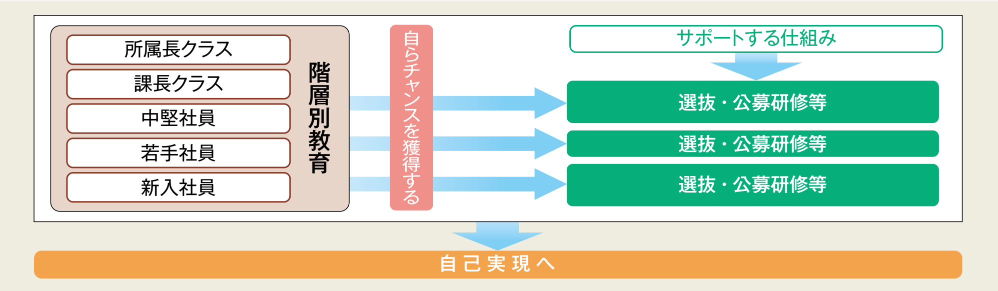
「人材育成＝自己実現システム」の基本方針

雪印メグミルク（株）では、求める人材像として「常に挑戦者であること」を掲げています。社員の自律的な成長および目標への「挑戦」を促し、仕事を通じて自己実現を果たす機会を提供します。

新入社員や昇級者などステージが変化した人材には「階層教育」が行なわれ、その後は成果獲得に向けて成長・挑戦した人材に優先的に教育機会が与えられます。成長による自己実現のチャンスは一人ひとりがつかむのです。それにより、企業理念に掲げた「消費者重視経営の実践」「酪農生産への貢献」「乳（ミルク）にこだわる」を実現できる社員を育成します。

人事データについての詳細 ➔ P52

教育体系



新入社員研修

新入社員研修

2011年4月雪印メグミルク（株）として初めての新入社員を迎えました。「チャレンジ」という人材開発方針に則り、「チャレンジできる土台作り」をするために、社会人としてまた雪印メグミルク（株）の一員としての基礎力を養います。約1週間をかけて、ビジネスマナーや会社の歴史、会社の仕組み、商品知識、品質とコスト意識についてなどを体験しながら学びました。

また、メーカーとしてのものづくりの現場を知る機会として、1～2ヶ月の工場実習も取り入れています。

新入社員研修

新入社員酪農研修

私たちの「3つ」の使命への理解を深めるために、主に入社1年目に「雪印こどもの国牧場」や「蔵王酪農センター」などで、酪農研修を行ないます。

牛舎での作業を体験することで酪農生産者の仕事を理解し、「酪農生産への貢献」という意味を考えます。また、生乳の基礎的知識や流通経路について学び、自分の業務と関連付けていくことで、「乳（ミルク）にこだわる」や「消費者重視経営」といった私たちの使命が、自然に身につけられることを目指しています。

酪農を実体験することで、ステークホルダーに対する理解を深め、同時に自分の担当業務との関わりを学びます。

新入社員酪農研修

私のチャレンジ!

さけるチーズの新棟、すばらしいものにするぞ!!

雪印メグミルク（株）大樹工場
製造二課 四ツ谷駐在
大田 信平（左） 植村 洋平（右）
髙橋 浩隆（中央）

女性活躍推進

女性が働きがいを持って働ける会社は、全ての社員が働きがいのある会社を実現することにつながる、との考えのもとで女性の活躍をさらに推し進めていきます。そのために、2011年1月には女性社員がその上司とともに受講する新しい研修をスタート。制度面でも4月からはジョブリターン制度を導入しました。

さらに女性マネージャーが相互にブラッシュアップする機会を提供するために、定期的に女性マネージャー部会を開催し、勉強会を行なっています。今後も様々な施策で、女性が活躍できる会社を目指します。

また、次世代育成支援対策推進法に基づいて対策を進め、2008年には「くるみんマーク」を取得しており、2011年2月にはイクメン支援 1 として制度周知を図るため、おめでとうパック 2 を配付する活動を開始しました。

社長講話

女性ワーク

Voice »

研修でいただいた意見を活かしていきます。

もっと女性に自己発現してほしい、上のステージも目指してしてほしいというメッセージ性溢れる研修でした。

社長や人事部長直々の講話。上司からの涙モノのお手紙。皆様に応援していただいていることを実感し、自分に何ができるのか自問自答しながらも、しっかり応えていきたいと思いました。

研究開発部
市乳商品企画G
堂迫 綾香(左)
佐藤 慎吾(右)

新たな視点で考えることができました。

女性社員とともに参加することで、日頃は意識しない視点を共有し、相互の関係構築を考えることができました。また女性社員自身も受講後行動面で変化が見られ、中身の濃い研修だったと思います。

九州統括支店 業務課
渡邊 哲郎

コーチング実践研修

チーム力強化の一環として、全経営職を対象に、個人を尊重する姿勢、個人の成長・自己実現のサポートに必要なコミュニケーションの研修を実施しています。個人の自発的行動を促し、自己実現と組織貢献との連動を促進させることで、外部環境変化に迅速に対応し、社会に貢献できる社員と組織をマネジメントできる経営職の育成を目指しています。

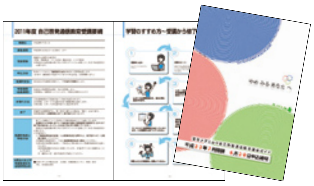
コーチング実践研修

研修を通して、傾聴・質問スキルを学び、相手の能力を最大限に引き出します。

くるみんマーク

子育てサポートしています
2008年認定事業主

自己啓発通信教育講座ガイド



自己啓発のための通信教育では、推奨する約200の各種通信教育から、社員が自ら選択して受講します。基礎的な技術・知識の習得や創造性豊かな教養を身につけることを狙いとし、OJTだけでは充足しきれない学びを促します。受講料の一部を会社が負担することで、自ら学ぶ意欲をサポートしています。

1 イクメン支援
育児を積極的に率先して行なう男性、育児を楽しんで行なう男性を支援すること。

2 おめでとうパック
子育て支援に関する制度・サービスの説明書と育児品を扱うビーンスターク・スノー(株)の商品・説明書をつめたもの。

私のチャレンジ!

この仲間たちと明るく活気ある職場で頑張ります。

雪印メグミルク(株) 富里工場
製造一課一係　柏木 寛幸

ミルクの可能性を引き出す取り組み

「乳（ミルク）にこだわる」メーカーとして、長年にわたり積み重ねた技術により様々なミルクの価値を提供しています。
これからもさらに技術を極めることで秘められた未知なる力を引き出していきます。

香港のお母さんにも安心をお届けしています

― ネクストブランドアワード（香港）受賞 ―

雪印メグミルク（株）は、現在香港では雪印オーストラリア（株）で製造した粉ミルクと日本製の粉ミルク、マーガリン、乳製品の販売を行なっています。このたび、香港で最大発行数を誇る雑誌「NEXT MAGAZINE」社主催のブランド大賞において、粉ミルク部門の部門賞を受賞しました。

本賞の受賞は、香港の粉ミルク市場で長年にわたり日本ブランドとして高い品質を維持し、香港の公立病院においても唯一採用されていることなど、赤ちゃんのすこやかな成長への安全安心ブランドとして評価されたものです。加えて、乳製品の販売により、乳幼児からお年寄りまで様々な食シーンでお客様の健康な暮らしに貢献するというイメージも高い評価をいただきました。これからも、さらに多くの方々の健康な暮らしに貢献できる商品を提供していきます。

ネクストブランドアワード受賞

母乳や育児用粉乳を飲めないお子様のために

生まれながらにしてアミノ酸などの代謝が正常ではないため、母乳や育児用粉乳を飲めないお子様がいらっしゃいます。雪印メグミルク（株）はこうしたお子様たちのすこやかな発育を願い、特殊ミルクを製造し、供給しています。

日本では全ての赤ちゃんが生まれてすぐ血液検査を受けます。そこで代謝異常が発見されると、医師の指示に従って特殊ミルクが与えられます。これにより、赤ちゃんは他のお子様となんら変わることなくすこやかに成長します。このため特殊ミルクは、患者様はもちろん、そのご家族、治療にあたられている医療関係者にとって、1日たりとも欠かすことのできないミルクなのです。

特殊ミルクは通常飲まれている育児用粉乳に比べ出荷量はわずかですが、厳格な品質管理のもと安定供給に努めています。このような取り組みに対し、2004年には恩賜財団母子愛育会より感謝状が贈呈され、また日本先天性代謝異常学会などの関連学会からも高い評価をいただいています。

現在、雪印メグミルク（株）では医薬品となっている特殊ミルク2品と厚生労働省の助成による特殊ミルク共同安全開発事業に登録されている特殊ミルク7品を製造し、安定供給に努めています。

詳細➔P52

私のチャレンジ!

ケーキ作りにチャレンジしています。とっても大きいデコレーションケーキを作るのが夢です!

雪印メグミルク（株）
福岡工場 総務課 中西 心

乳酸菌のもたらす健康効果に高い評価をいただきました

— 第40回食品産業技術功労賞 技術･アイディア部門 受賞 —

雪印メグミルク（株）が保有する約3,000株に及ぶ乳酸菌の中から、現代日本人のために選び抜いたプロバイオティクス乳酸菌「ガセリ菌SP株」が、食品産業新聞社制定の「第40回 食品産業技術功労賞 技術･アイディア部門」を受賞しました。

これは、ガセリ菌SP株の「腸管への定住性」や「本菌株を含む発酵乳での内臓脂肪低減効果」といった研究成果、および本菌株を使用した商品の販売実績などを高く評価いただいたものです。

なお、本菌株は雪印メグミルク（株）の主力ヨーグルト商品6品に使用しています。（※2011年5月末時点）

当賞受賞を励みに、今後も乳酸菌がもたらす健康効果に関する研究を続けていきます。

第40回 食品産業技術功労賞表彰式

ミルクは栄養機能成分の宝庫です — 機能性素材の開発･販売 —

雪印メグミルク（株）は、栄養機能成分の宝庫であるミルクを原料に、独自の技術で製造した固有の栄養機能性素材の販売事業を展開しています。

「MBP®」は、牛乳や母乳に微量に含まれる乳タンパク質です。清涼飲料に仕立てた「毎日骨ケアMBP®」は「骨密度を高める働きのある」との表示が許可された特定保健用食品です。

「鉄･ラクトフェリン」は貧血改善効果が認められた鉄素材です。また月経痛の緩和作用や抗ストレス作用も確認されています。「ミルクセラミド」には肌の保水性を向上する働きが確認され、美肌素材として食品会社のみならず、化粧品会社からも注目されています。「ホエイペプチド」には筋肉を増強する可能性があることが示されています。

各素材とも国内外でサプリメントやヨーグルトなど各種商品に幅広くご利用いただいています。

ミルクの力を引き出した商品です

口腔ケアの大切さをお伝えしています

— 誤嚥性(ごえんせい)肺炎予防のための口腔セミナーの開催 —［ビーンスターク･スノー（株）］

超高齢社会に突入しているわが国の高齢者の死因第一位は肺炎であり、そのほとんどが口腔内の細菌が起因している誤嚥性肺炎であることが、近年の研究でわかってきました。しかし、医療現場をはじめ介護現場でも、口腔ケアの重要性に対する認識は、まだまだ低いと言わざるを得ません。ビーンスターク･スノー（株）では、特に要介護者の口腔ケアの重要性を啓発するため、全国の病院･施設･専門学校などで、口腔ケアの必要性や手技についてセミナーを開催し、口腔ケア商品の普及に努めています。

2010年度は口腔セミナーを約400件開催しました。

口腔ケアを通じて、高齢者の健康のサポートをしています

グループ会社の取り組み

母乳調査研究結果の情報発信
●ビーンスターク･スノー（株）

ビーンスターク･スノー（株）の母乳研究の一環として実施した「赤ちゃんの便に関する研究」について、朝日新聞社が取材に来られ、「凄腕つとめにん『粉ミルクを母乳に近づけたい･集めた赤ちゃんのうんち594人分』、朝日新聞夕刊2010年3月29日版」の記事に取り上げていただきました。
本記事は、お母様方や医療関係者に対しビーンスターク･スノー（株）の母乳研究に基づく育粉開発の姿勢をご理解いただくための貴重な情報発信となりました。

私のチャレンジ!

新設備が稼動し始めましたが､改善点は山とあるはずです｡最善を目指し頑張りたいと思います｡

雪印メグミルク（株）
野田工場 縣 朋治

環境マネジメント

雪印メグミルク（株）は、事業活動に伴う環境影響だけではなく、事業活動が社会に与える影響を考慮しながら、環境と経営が調和した環境保全活動への取り組みを積極的に行なっています。

環境方針

雪印メグミルク（株）は、合併にあたり新たに環境方針を制定しました。この環境方針に掲げた4つの項目を環境保全活動の基盤として、環境負荷低減の取り組みを推進し、社会的責任を果たしていきます。

雪印メグミルク環境方針

私たちは、「雪印メグミルク行動基準」に則り、
環境マネジメントシステムを構築し、環境負荷低減を図ります。
そして、自然の恵みから生まれるミルクを中心とした
事業活動と地球環境の共生に努めます。

1．法 令 の 遵 守
環境法令・条例等を遵守し、法改正等に迅速に対応します。

2．環境への配慮
省エネルギーと廃棄物の適正管理を実施し、継続的に改善します。

3．環境意識の向上
一人ひとりが環境保全に対する自覚を持つとともに、環境教育を積極的に推進します。

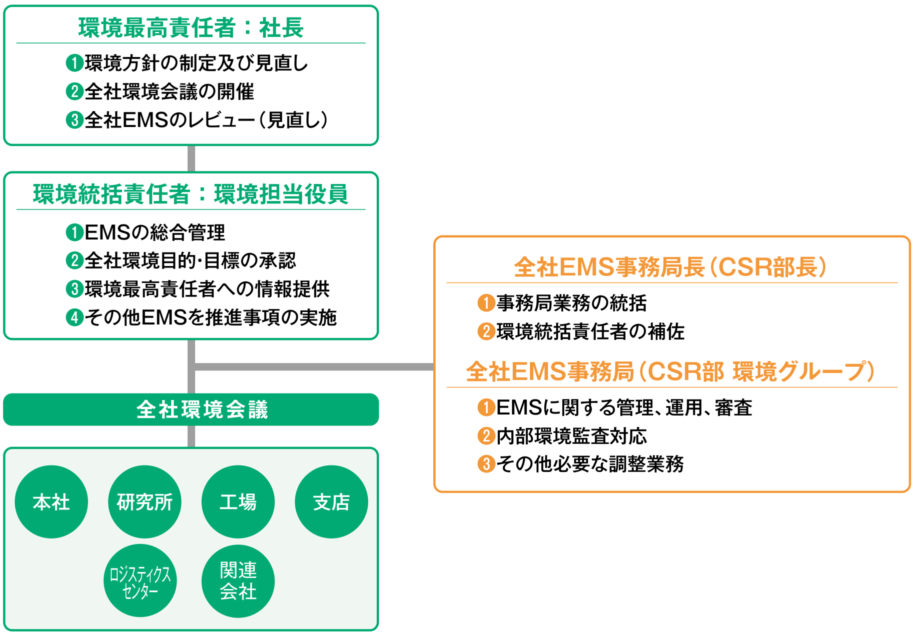
4．環境情報の開示
環境情報を積極的に開示し、透明性のある環境保全活動に努めます。

平成23年4月1日

環境マネジメント体制

雪印メグミルク（株）の環境マネジメントは、環境保全活動の最高責任者である社長をトップに、環境担当役員が環境統括責任者としてEMS 1の総合管理をしています。また、各部門には環境管理責任者をおくことで、全員参加型の環境マネジメントに取り組み、ISO14001 2に準拠した環境マネジメントシステムを推進しています。

環境マネジメント体制図



1 **EMS**
Environmental Management System の略。

2 **ISO14001**
組織内で環境保全に取り組むための体制づくりに関する国際規格。

私のチャレンジ!

皆さんに「笑顔」で仕事をしてもらえるように、サポート役で頑張ります。

雪印メグミルク（株）
財務部管理グループ 二口 修

環境教育

様々な環境教育

雪印メグミルク（株）では、イントラネットなどを使用した環境全般に関する教育を全社で実施しています。

また、各種法律に関する実務作業に必要な専門教育や、部署の実態に則した独自の環境教育を実施しています。

内部環境監査員養成研修

雪印メグミルク（株）では、ISO14001に基づく内部環境監査を実施する力量を持った人材の育成と、各部署での円滑な環境保全活動の推進を目的として、内部環境監査員養成研修を実施しています。

神戸工場環境教育

内部環境監査員養成研修

環境監査

内部環境監査

雪印メグミルク（株）では、「審査員補 3」の資格を有するメンバーと、内部環境監査員養成研修にて社内資格を有したクロスチェック監査員がチームを組み、客観的な視点で内部環境監査を行なっています。

監査チームは、内部環境監査での指摘事項や改善などを的確に被監査部署に伝えることで、PDCA 4 をより円滑に進められるようにサポートをしています。

外部環境審査

雪印メグミルク（株）では、2011年10月のISO14001統合認証取得を目指し、第三者機関による外部環境審査の受審を予定しています。

磯分内工場内部環境監査

関西チーズ工場外部環境審査

グループ会社の取り組み

ISO14001認証取得

2010年5月にみちのくミルク（株）といばらく乳業（株）は、ISO14001認証を取得し、日々環境保全活動に取り組んでいます。

● みちのくミルク（株）

● いばらく乳業（株）

3 審査員補
（社）産業環境管理協会の環境マネジメントシステム審査員評価登録センター（CEAR）が設けた基準を満たす研修を受け、その試験に合格した審査員のこと。

4 PDCA
P（plan）…
目標と実施方法を決定する計画
D（do）…
決めたことの実行
C（check）…
実行した内容の評価
A（action）…
結果を改善していくための措置

私のチャレンジ！

明るく元気に、
笑顔でがんばる！

雪印メグミルク（株）
生産統括部
矢野 優子（左） 阿部 あけみ（右）

地球温暖化防止

雪印メグミルクグループは、環境保全をCSRの基盤となる取り組みとして捉え、CO_2排出量の削減に向けた様々な取り組みを推進しています。

省エネルギーの取り組み

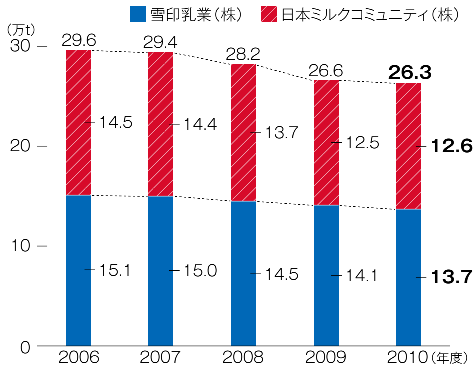
CO_2排出量とエネルギー使用量の推移

雪印メグミルク（株）の工場では、ボイラー・バルブ・熱交換器などの放熱防止ジャケットや、太陽光発電パネルの設置など、地球温暖化防止に向けた省エネルギー設備の設置を推進してきました。これらの省エネルギーの取り組みを行なった結果、2010年度のCO_2の排出量は、総量で約1.1％の削減となりました。

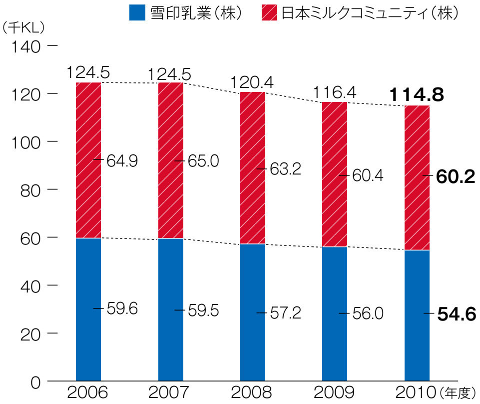
また、工場全体のエネルギー使用量については、生産工程の見直しや設備機器の更新、エネルギー利用の効率化を継続的に実施した結果、前年度より約1.4％の削減となりました。今後も、ボイラーの燃料転換や廃熱回収設備の導入などにより、CO_2排出削減をさらに推進していきます。

※2010年度より、旧日本ミルクコミュニティ（株）と旧雪印乳業（株）の発熱係数およびCO_2排出係数を統一したため、昨年までのデータに変更があります。

CO_2排出量



エネルギー使用量



Close Up »» 支店・工場での環境活動

野田工場での取り組み

野田工場では、駐車場の有効活用として、駐車場緑化の取り組みを行ないました。グループ会社の雪印種苗（株）の駐車場緑化ブロックシステムを採用し、363m²の緑化を行なうことができました。このシステムは、写真のように駐車場で車輪の間に耐陰性に優れるタマリュウ[1]を植栽するもので工場の緑地面積として認められています。

駐車場緑化ブロックシステムの採用

川越工場での取り組み

川越工場では、工場棟屋上の有効活用として、屋上緑化と太陽光発電の設置に取り組みました。屋上緑化は施設面積が350m²、太陽光発電は設置面積が428m²になります。太陽光発電では、30kwh発電することができるため。CO_2排出量を年間で約12t削減することができます。また、原料用冷凍冷蔵庫棟の更新を行ない、効率良く原料を冷却できるようになりました。年間で約2.5万kwhの電力が削減されるため、CO_2排出量を約8t削減することができます。

クリーンエネルギーの活用に力を入れています

グループ会社の取り組み

エコキャップ運動の推進

● （株）エスアイシステム

CO_2削減や世界の子どもにワクチンを届ける"NPO法人エコキャップ推進協会"が実施する「エコキャップ運動」に参加しています。2010年度は69,160個回収し、86人分のワクチンを提供するとともに545kgのCO_2の削減にもなりました。

省エネルギー委員会活動

● いばらく乳業（株）

いばらく乳業（株）では、省エネルギーに関わる取り組みを進めるため、2009年度より社内に部署横断の「省エネルギー委員会」を設置しました。
2010年度は委員会方針を「環境負荷低減に貢献し、併せて会社経営の健全化に寄与する」こととし、省エネ法に準じた行政対応等の具体的施策を実施しました。

1 タマリュウ
ユリ科ジャノヒゲ属の多年草で耐寒性があり、日陰でも生育することから、主にグランドカバーとして使われている植物です。

私のチャレンジ!

いつも笑顔と前向きな心を忘れずに、仕事や家庭での生活をエンジョイしていきたいです!

雪印メグミルク（株）生産統括部

廃棄物の削減とリサイクル

雪印メグミルクグループは、環境負荷を軽減するために、廃棄物の発生抑制やリサイクルへの取り組みを推進しています。

廃棄物削減の実績

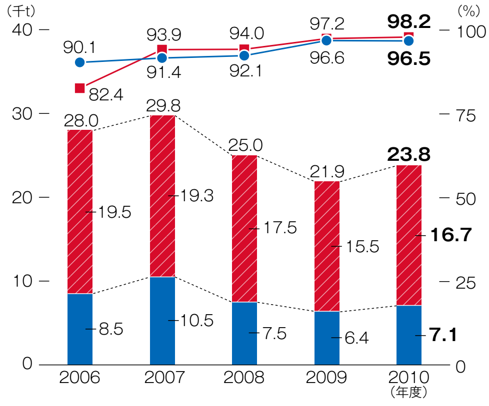
廃棄物・食品廃棄物の発生量とリサイクル率の推移

雪印メグミルク(株)の工場の廃棄物排出量は、2011年3月の東日本大震災の影響により、2010年度は前年度比9%の増加となりましたが、廃棄物リサイクル率は、市乳部門(旧日本ミルクコミュニティ(株))では、98.2%となり、2011年度末までにゼロエミッション(リサイクル率98%以上)の目標を前倒しで達成しました。乳食品部門(旧雪印乳業(株))では飼料化・肥料化の取り組みの継続により、前年度とほぼ同率のリサイクル率となりました。

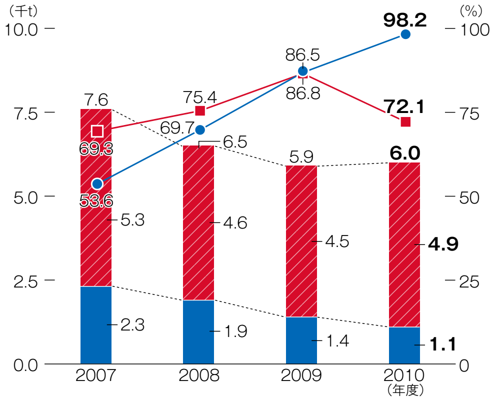
また、食品廃棄物のリサイクル率は、市乳部門(旧日本ミルクコミュニティ(株))において、2月までは97.8%でしたが、震災の影響により、3月に食品廃棄物が多量に発生(約2,000t)したため、前年を下回り72.1%となりました。

今後も食品メーカーとしての責務である廃棄物・食品廃棄物の発生抑制およびリサイクルに継続して努めていきます。

廃棄物排出量とリサイクル率



食品廃棄物排出量とリサイクル率



Close Up ≫ 容器の軽量化による廃棄物の削減

雪印メグミルク(株)では、環境に配慮し、包装容器の軽量化や包装容器の梱包資材の見直し、包装資材や原料の効率的な配送などによる廃棄物の排出抑制に継続して取り組んでいます。この中で2010年は、従来よりも約24%軽量化されたカップを採用した「雪印コーヒー C-style」の発売をはじめ、スライスチーズフィルムの梱包資材の見直しやデザート容器の軽量化の検討、デザートソース類ボトルの生産工場変更による配送負荷の軽減などに取り組んでいます。

雪印コーヒー C-style

私のチャレンジ!

お客様に笑顔と美味しさと健康を届けられるよう、ミルクの可能性を信じて頑張ります。

雪印メグミルク(株)
研究開発部 市乳商品企画G
都築 栄二

ものの流れと環境影響（マテリアルフロー）

雪印メグミルク（株）では、事業活動に伴う環境負荷状況を把握し、エネルギーや水、原材料、包装材料などの資源を効率的に利用できるよう取り組んでいます。

マテリアルフロー

INPUT

原材料	包装材料	ユーティリティ
生乳 ……… 1,153,500 t	紙パック・その他紙・プラスチック・ガラス・アルミ　ほか ……… 55,500 t	電力 …… 23,100 万kWh
油脂 ……… 7,800 t		燃料（原油換算）… 61,700 kl
チーズ ……… 17,200 t		用水 ……… 11,800 千m³
乳由来原料 …… 47,800 t		
その他原料 …… 60,200 t		

事業活動

生産

物流

商品

OUTPUT

廃棄物	排水	CO_2
廃棄物 ……… 23,800 t	排水 ……… 10,700 千m³	工場由来 …… 263,100 t
		物流由来 …… 128,800 t

私のチャレンジ!

雪印メグミルクファンと笑顔を増やしていきたいです。

雪印メグミルク（株）
関東販売本部 首都圏中央支店
竹下 明日香

環境報告

雪印メグミルクグループの環境保全活動

ここでは、雪印メグミルクグループで実施している様々な取り組みをご紹介していきます。

物流部門における食品リサイクル率向上の取り組み

物流部門では、2009年10月に環境・流通品質グループを新設し、物流過程で発生する廃棄物処理における食品リサイクル率向上の取り組みを強化しています。

飼料化リサイクルでは、地域限定的な取り組みを全国に拡大した結果、特に脱脂粉乳などにおいて、直近3年のリサイクル量の伸長が顕著であり、2008年度975kgだったリサイクル実績が、2009年度には2,000kg、そして2010年度には約20倍の21,825kgになりました。今後も、廃棄物資源の有効活用等、環境負荷低減への取り組みを継続していきます。

また、環境に配慮した車両を積極的に選択することにより、CO_2排出削減を推進しています。

配車センターでは、全国の出荷場所間輸送を一元管理し効率的な配車を行なっています。地域毎に設置しているロジスティクスセンターでは、お取引先様への配送において、独自の物流管理システムや配車システムを使用して、日々積載効率と運行コースを分析し、適正な車両選択を行なっています。

また、ロングライフ管理チームでは、全国のロングライフ製品在庫を一元管理し、無駄な製品輸送の削減を行なっています。ロジスティクスセンターでは、需要予測精度を上げ、適正在庫管理を行なうことにより、2010年度の製品廃棄物は前年度比約50%まで削減しています。

製品の輸送トラック

環境コミュニケーション

エコプロダクツ2010への参加

2010年12月9日～11日の3日間、745の企業・団体が参加する「エコプロダクツ2010」（主催:社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社）が東京ビッグサイト（江東区）で開催され、昨年実績の18万人を超える来場がありました。エコプロダクツは、低炭素社会を目指す新しい環境技術やサービスによって、環境問題の解決につながる新しいビジネスモデルを展示する、国内最大級の環境イベントです。

雪印メグミルク（株）は、全国牛乳容器環境協議会（容環協）1のメンバーとして参加し、紙パックの原料やリサイクルについての紹介、紙パックから作る手すきはがき作りの体験コーナーを設け、リサイクルに関する啓発活動を行ないました。

手すきはがき作り体験

1 **全国牛乳容器環境協議会（容環協）**
容環協とは、全国の乳業メーカー、飲料紙容器メーカー、団体会員、賛助会員など約180会員からなる、紙容器に関するリサイクル活動、環境保全に取り組んでいる団体です。

私のチャレンジ!

どんな小さな仕事にも自分らしさを盛り込む!!

雪印メグミルク（株）
人事部人事労務グループ
沢田 律子（左） 内田 聡美（右）
望月 紗瑛（中央）

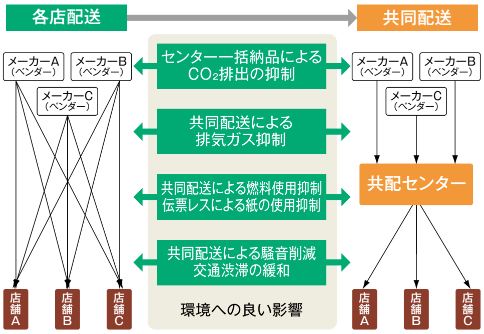
共同配送の推進による環境負荷の軽減 ［三和流通産業（株）］

三和流通産業（株）では、コア事業の一つである共同配送事業を通して、環境への負荷を軽減する取り組みを推進し、地域や社会から信頼される企業を目指しています。図のように各店配送から共同配送に変えることで、環境負荷の軽減を図っています。

2010年度は、新たに（株）モリキ様の共配業務を受託し、現在18企業約2,000店に共同配送を実施しています。各店配送から共同配送に変更したことで、毎日、店舗に10台以上のトラックが納品していた状態から、トラック1台による納品となり社会へ貢献をしています。

共同配送の推進による環境負荷の軽減

- 商品が、メーカーから小売店に届くまでの物流効率を高め、CO_2や排気ガスを削減。
- 伝票発行を無くし、情報の電子化により、紙の使用量を削減。
- 配送車輌の集約により店舗近隣の騒音を削減。



効率良い物流で、環境へ配慮しています

北海道庁赤レンガ庁舎前の花壇設置

雪印メグミルクグループでは北海道との包括連携協定の一環として、北海道庁赤レンガ庁舎前に花壇を設置しました。

雪印種苗（株）では花壇のデザインと施工を行ない、2010年6月18日にオープニングセレモニーが開催され、設置期間の10月11日まで花壇の管理も行ないました。

設置場所は札幌でも有数の写真撮影スポットとなっており、多くの市民や観光客に喜んでいただきました。

たいへんご好評いただいた道庁前の花壇

雪印メグミルク（株）東京本社ビルの屋上緑化

東京本社ビルでは、環境保全活動の一つとして2009年に屋上の緑化を行ないました。芝生には環境にやさしい「スノーエコターフ」（雪印種苗（株）開発）を使用しています。休憩時間には従業員の憩いの場になっており、疲労回復にも効果があるようです。

屋上緑化による環境効果（理論値）

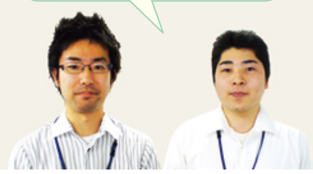
●緑化総面積	162.98m²
●屋上温度の引き下げ効果	約3℃
●CO_2の削減量	4.6t／年

東京本社ビルの屋上緑化

私のチャレンジ!

新会社での新労務規程の運用にあたり、規程の条文を血の通ったものにできるよう、丁寧で正確な実務対応を心がけていきます。

雪印メグミルク（株）
人事部人事労務グループ
林 貴一郎（左） 向井 大輔（右）



「IPM ESSEN 2011」にて、シクラメンを展示
［雪印種苗（株）］

ドイツ エッセン市で開催される「IPM ESSEN」は世界最大級の国際園芸見本市です。2011年は1月25日～28日にかけて47ヶ国から1,508団体が出展、のべ約60,000人が来場しました。

雪印種苗（株）は農林水産省の委託事業で設置されたジャパン・パビリオンの一員として参加し、シクラメンの自社品種を展示しました。現地では鉢花生産者や一般の愛好家から「新しい花色で可愛らしい」「日本の製品には関心がある」など、好評をいただきました。

美しいシクラメンを楽しんでいただきました

環境にやさしい「万能環境クリーナー」の使用を推進 ［（株）YBS］

（株）YBSでは環境配慮というCSR活動の観点から、環境にやさしい清掃用ツールとして「万能環境クリーナー」の使用を推進しています。

このクリーナーを使用することにより、従来の洗剤と異なりクリーニング後に水洗いが不要のためポリッシャー 1 使用時間が半減できることからCO_2削減に貢献している上に、石油系の界面活性剤などを使用していないことからシックハウス症候群 2 対応にも効果があるなど、人にもやさしい取り組みとなっています。

地球も職場もきれいにする清掃を心がけています

1 **ポリッシャー**
床などを洗い、磨く電動式の機具。

2 **シックハウス症候群**
建物の室内環境が原因で健康被害をおこすこと。

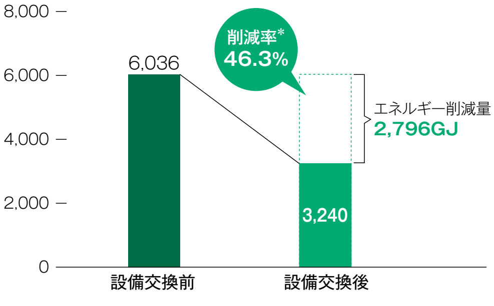
雪印メグミルク（株）東京本社ビル 電気使用の合理化で最優秀賞を受賞

東京本社ビルは、電気使用の合理化に顕著な成績を収めた事業場に贈られる「関東地区電気使用合理化委員会表彰」で最優秀賞を受賞しました。熱源を重油から電気に転換し、さらに省エネルギーで、環境負荷の少ない電気設備を採用することで、設備の交換前と比べて年間46.3%のエネルギーを削減したことが評価されました。

関東地区電気使用合理化委員会表彰 最優秀賞

本社ビルエネルギー使用量の比較（年間）

※エネルギー使用量は原油換算した数値
*削減量／設備交換前の使用量



私のチャレンジ!

常にポジティブ! いろいろなことに挑戦したいです!

雪印メグミルク（株）
生産管理部規格書グループ
山口 沙織（前列中央）

P17 企業倫理委員会

●第2期「企業倫理委員会」委員一覧（平成23年4月～6月）

任期:平成23年4月1日～平成23年6月30日

社外委員	日和佐　信子	元 全国消費者団体連絡会事務局長	企業倫理委員会 委員長　雪印メグミルク（株）社外取締役
	江澤　郁子	日本女子大学名誉教授	医学博士・栄養学の有識者
	松本　邦明	経営倫理実践研究センター 常務理事	企業倫理の有識者
	髙谷　幸	日本食品衛生協会 常務理事	品質の専門家
	小澤　理恵子	元 日本生活協同組合連合会 共済事務センター部長スタッフ	消費者関連の有識者
	簗瀬（やなせ）　捨治	長島・大野・常松法律事務所 弁護士	法律の専門家
労働組合	遠山　二郎	雪印メグミルク 労働組合中央執行委員長	労働組合の代表者
社内委員	佐藤　幸吉	代表取締役副社長	会社の代表
	井戸田　正	取締役専務執行役員	資材調達、品質保証、CSR担当役員
	山登　正夫	取締役常務執行役員	生産関係、研究・商品開発担当役員

●第2期 企業倫理委員会・専門部会委員一覧（平成23年4月～6月）

企業倫理委員会・品質部会委員　（役職は平成23年4月1日現在）

社外委員	髙谷　幸	企業倫理委員会委員 部会長
	日和佐　信子	企業倫理委員会 委員長
	佐藤　邦裕	日本生活協同組合連合会 本部長スタッフ 品質管理担当
	小沼　博隆	東海大学教授・医学博士 HACCPの専門家
社内委員	城端　克行	品質保証部長

企業倫理委員会・消費者部会委員　（役職は平成23年4月1日現在）

社外委員	松本　邦明	企業倫理委員会委員 部会長
	日和佐　信子	企業倫理委員会 委員長
社内委員	井戸田　正	取締役専務執行役員

企業倫理委員会・表示部会委員　（役職は平成23年4月1日現在）

社外委員	小澤　理恵子	企業倫理委員会委員 部会長
	日和佐　信子	企業倫理委員会 委員長
	板倉　ゆか子	消費生活アナリスト。薬剤師有資格者。 元 国民生活センター総務企画部調査役 明治学院大学非常勤講師
社内委員	小西　寛昭	執行役員 研究開発部長
	城端　克行	品質保証部長
	矢後　博邦	CSR部長

●平成23年度 企業倫理委員会提言

合併新会社のスタートに際し、企業倫理委員会として下記の通り提言いたします。

1.全役員・従業員が企業理念の実現という共通の目標に向け、それぞれが力を発揮し、またその力をひとつに合わせて、次の項目に取り組みましょう。
（1）「雪印メグミルク行動基準」の理解を深め、浸透・定着を図りましょう。
（2）一人ひとりが自主的、主体的、積極的に行動できる、新しい企業風土の醸成に努めましょう。
（3）雪印、日本ミルクコミュニティそれぞれの出身者の融合を促進するため、経営層と現場社員および各職場内において双方向のコミュニケーションを強化しましょう。
（4）組織において極めて重要な役割を担っている「ミドル層」を中心に、次世代を牽引していく人材の育成に取り組みましょう。
2.「食の責任を強く認識し、果たしていく」ための品質保証活動を徹底しましょう。
▶詳しくは、「品質部会からの提言」をご覧下さい。
3.消費者重視経営のさらなる深耕に向け、「消費者との対話（ダイアログ）」を強化しましょう。
▶詳しくは「消費者部会からの提言」をご覧下さい。
4.「時代の変化、社会情勢の変化」に適合した「表示」への取り組みを推進しましょう。
▶詳しくは「表示部会からの提言」をご覧下さい。

●平成23年度 品質部会からの提言

平成22年度の品質部会監査は、日本ミルクコミュニティ（株）の工場を前年度の視察から監査に変更して実施した。品質部会監査の結果、品質管理レベルは、工場間および製造委託会社と自社工場の間で差があり、基本である5Sの管理レベルの継続的向上を図る必要がある。取り組み目標の優先順位を定め、組織的に5Sを推進していくことが望まれる。

なお、施設・設備が老朽化してきており、衛生環境を維持・向上するうえで、優先順位を付けて計画的に改善する必要がある。また、従業員との意見交換では、製造技術の習得や商品の品質保証についての意欲を感じたが、一方では、コミュニケーションの不足、設備・要員に不安を感じていることが分かった。

平成23年度には、以下の項目に取り組んでほしい。

1.雪印メグミルク（株）の品質保証システム（MSQS）の周知を図るとともに、品質マネジメント委員会における品質目標への取り組みを推進すること。また、委託工場においても、品質目標への取り組みを推進すること。
2.教育・訓練を推進し、従事者ひとり一人の品質管理への意識向上を図ること。また、後継者教育の取組みを推進し、製造現場におけるスキルの向上を図ること。
3.製品の特性により、市乳と乳食品の工場で衛生管理方法を完全に一致することは難しいかもしれないが、できるだけ統一するよう努めること。
4.工程における品質課題の解決に向けて、品質苦情削減及び品質トラブル回避に効果的な対策を推進すること。

●平成23年度 消費者部会からの提言

雪印メグミルク(株)は、消費者重視を経営の基本のひとつに位置づけています。ついては、下記の項目を着実に実行していきましょう。

1.重要なステークホルダーである消費者との対話(ダイアログ)の場である消費者部会をさらに充実・発展させましょう。
2.これまで消費者の皆さんから出された生の声・意見・要望を傾聴し、前向きにこたえていきましょう。
　(1)「工場見学において、見学者の声を取り入れる仕組みや従業員がその声を共有する仕組み」を構築すること。
　(2)消費者に誤解や疑問を生じないように分かりやすい商品の表示に努めること。
　(3)多くの女性社員が経営職としても積極的に活躍できる場づくりを推進し、広く消費者視点を反映した経営を進めること。

●平成23年度 表示部会からの提言

～消費者の適切な商品選択に資するために～

1.雪印メグミルク(株)としての「商品パッケージ任意表示 基本マニュアル」を早急に作成しましょう。
2.消費者重視経営の観点から、消費者が求める情報、消費者に伝えるべき情報を適切に判断しましょう。そして、商品の表示や広告等では、誤認や誤解をもたらすことのない正確でわかりやすい情報を提供しましょう。
3.消費者政策が強化される中で、食品表示に関する状況が変化しています。そうした環境に留意し、表示の点検・見直しに努めましょう。

☆雪印メグミルク(株)は、『特定保健用食品・機能性食品・健康食品』についてどのような政策をとっていくのか、明確にしてほしい。

●企業倫理委員会実施状況

対象期間:平成22年4月～平成23年3月

1.定例委員会(12回)

(1)主な討議事項
・「雪印メグミルク行動基準」について
・「表示部会」の設置について
・「雪印メグミルクお客様モニター」の実施について
・「お客様センター」の業務・運営について
・「雪印メグミルクグループ活動報告書2010」構成、内容について
・「雪印メグミルクグループCSR社員アンケート」内容と結果対応について

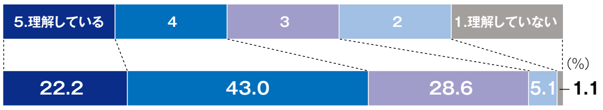
(2)主な報告事項
・合併について
・平成23年3月期 決算報告(第1～4四半期分)
・CSR委員会実施内容(第3・4回)
・酪農諮問委員会実施報告(第1・2回)
・「品質保証システムの統合」について
・「雪印メグミルク環境方針」について
・雪印家庭用商品の表示改善の取り組み進捗状況

(3)月次定例報告事項
・部会実施報告(品質部会、消費者部会、表示部会)
・苦情分析結果報告(発生件数、苦情内容、発生原因、他)
・広報概況報告(社内外情報発信内容、お客様の声入電概要、マスコミ報道概況、他)
・CSRグループ活動実施概要
・ホットライン通報状況

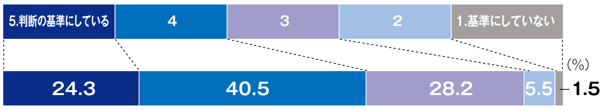
P20 CSR社員アンケートの実施

[1] 雪印乳業行動基準・日本ミルクコミュニティ行動指針　理解度

1-1. あなたは「雪印乳業行動基準、又はミルクコミュニティ行動指針」の内容を理解していますか?

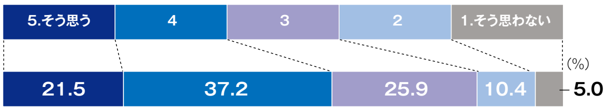


1-2. あなたは、雪印乳業行動基準、又はミルクコミュニティ行動指針を判断の基準にしていますか?

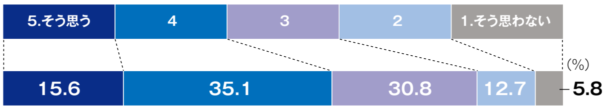


[2] コミュニケーション・社員の意識・マネジメント

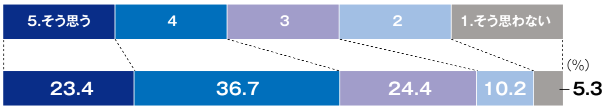
2-4. あなたの職場のコミュニケーションは円滑だと思いますか?



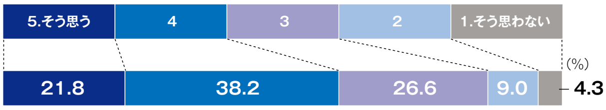
2-5. あなたの職場では、皆が目標に向かって一体感を持って仕事をしていると思いますか?



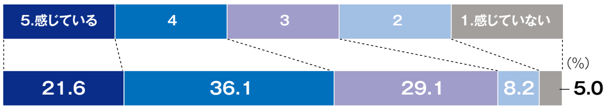
2-7. あなたの職場では、誰もが自由に疑問等を問題提起できる雰囲気があると思いますか?



2-9. あなたは、上司(あなたに指示を与える人)と意思の疎通が図られていると思いますか?

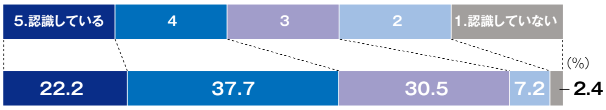


2-12. あなたは、今の仕事にやりがいを感じていますか?

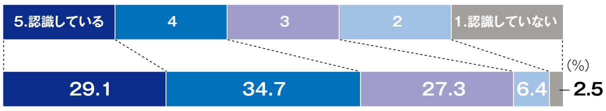


[3] CSR経営・CSR活動・コンプライアンスの徹底

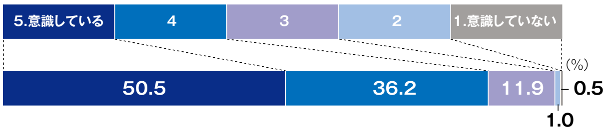
3-15. あなたは、雪印メグミルクグループが中期計画で提示しているCSR経営の基盤となる取り組みが、『消費者重視・環境保全・品質保証・コンプライアンス』であることを認識していますか?



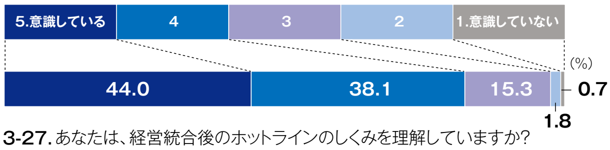
3-17. 雪印乳業(株)ではSQS、日本ミルクコミュニティ(株)ではMCQSというしくみに基づいて、品質管理の徹底に取り組んでいます。あなたは、そのことを認識していますか?



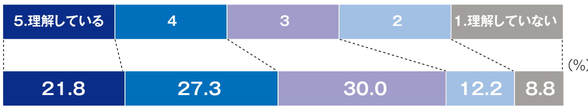
3-20. あなたは、仕事の内容に関わらず、食品メーカーの社員として「食の責任」を意識し、自身の業務を行っていますか?



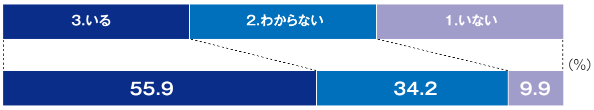
3-22. あなたは、常に「お客様・消費者」を意識して仕事をしていますか?



3-27. あなたは、経営統合後のホットラインのしくみを理解していますか?

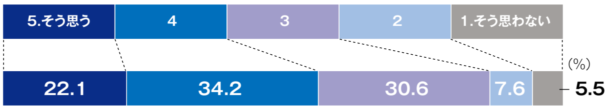


3-29. あなたは、職場で何か問題が生じた時、(ホットラインに相談する前に)問題解決の為に相談できる人はいますか?

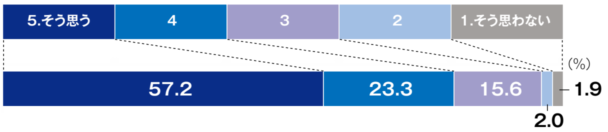


[4] 合併に向けた期待感

4-33. あなたは、これから合併することで、研究開発力、技術力、販売力等が相乗効果によりさらに強くなると思いますか?



4-34. 経営統合ー合併の成功には、日本ミルクコミュニティ(株)と雪印乳業(株)の従業員同士の相互理解が重要であると思いますか?



P21 企業倫理活動

●雪印乳業食中毒事件

2000年6月に雪印乳業(株)大阪工場製造の低脂肪乳などにより発生した食中毒事件。6月27日大阪市保健所に最初の食中毒患者のお申し出がありました。調査の結果、雪印乳業(株)大樹工場で製造された脱脂粉乳が停電事故で汚染され、それを再溶解して製造した脱脂粉乳を大阪工場で原料として使用していたことがわかりました。その脱脂粉乳に黄色ブドウ球菌が産生する毒素(エンテロトキシン)が含まれていたことが原因でした。雪印乳業(株)は事件直後の対応に手間取り、商品の回収やお客様・消費者への告知に時間を要したため、被害は13,420人に及びました。この事件によって社会に牛乳、乳製品をはじめとする加工食品の製造に、不信と不安を抱かせるだけでなく、乳等省令についての乳業界の解釈と社会の理解との乖離が明らかになるなど、社会に対して大きな影響を与えてしまいました。

●雪印食品牛肉偽装事件

雪印乳業(株)の子会社であった雪印食品(株)が、国のBSE対策事業を悪用し、安価な輸入牛肉を偽って、国産牛肉として申請し、交付金を不正に受給したもので、明らかな詐欺事件。2002年1月23日の朝日、毎日両新聞に掲載されたことで発覚しました。背景には、前年のBSE牛発生に伴い、食肉業界全体で、消費者の牛肉買い控えによる大量の在庫を抱えるという状況がありましたが、最大の原因は、企業倫理に反した当事者の考えや上司の指示が根底にあったことです。事件発覚から3ヵ月後の2002年4月末に、雪印食品(株)は解散するに至りました。

P32 酪農諮問委員会 委員一覧

諮問委員	丹羽　忠文	元べつかい農協代表理事組合長、酪農生産者
	松川　美雄	元いわて奥中山農協代表理事専務、酪農生産者
	澤　　弘之	元全国農業協同組合連合会酪農部長
	鈴木　宣弘	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
	矢坂　雅充	東京大学大学院経済学研究科准教授
	小林　信一	日本大学生物資源科学部教授

(敬称略)

P33 小中学校への食育授業

2010年度　食育授業　実施小中学校　一覧

地域	都道府県	小・中学校名
北海道	北海道	札幌市立あいの里西小学校、札幌市立栄北小学校 札幌市立鴻城小学校、札幌市立北白石小学校 江別市文京台小学校、帯広市立大空小学校
東北	宮城県	仙台市立泉ヶ丘小学校、仙台市立生出小学校 仙台市立鶴谷小学校、仙台市立枡江小学校
関東	茨城県	日立市立久慈小学校、神栖市立太田小学校 鹿島市立高松中学校、茨城町立川根小学校 神栖市立深芝小学校、鹿嶋市立鹿島中学校
	神奈川県	川崎市立長尾小学校、横須賀市立大塚台小学校 川崎市立千代ヶ丘小学校、伊勢原市立石田小学校 横浜市立市場中学校
	埼玉県	三郷市立八木郷小学校、春日部市立宮川小学校 本庄市立児玉小学校、春日部市立武里南小学校
	千葉県	千葉市立柏台小学校、東金市立東小学校 白子町立南白亀小学校、印西市立本埜第一小学校 柏市立柏第七小学校
	東京都	足立区立新田学園小学校、足立区立本木小学校 足立区立大谷田小学校、足立区立中川小学校 足立区立東淵江小学校、足立区立弥生小学校 足立区立六月小学校、江戸川区立篠崎第二中学校 江戸川区立清新第一小学校、江戸川区立西葛西小学校 江戸川区立二之江第三小学校、江戸川区立臨海小学校 大田区立馬込小学校、大田区立久原小学校 大田区立相生小学校、大田区立大森第四小学校 新宿区立四谷第六小学校、新宿区立牛込第三中学校 新宿区立落合中学校、新宿区立花園小学校 世田谷区立八幡山小学校、世田谷区立用賀小学校 世田谷区立深沢小学校、中央区立佃島小学校 中央区立豊海小学校、中野区立第九中学校 中野区立谷戸小学校、港区立御田小学校 港区立青南小学校、港区立三光小学校 港区立芝浦小学校、港区立本村小学校 港区立赤羽小学校、葛飾区立東金町中学校 江戸川区立松江小学校、江戸川区立瑞江小学校 江戸川区立第四葛西小学校、北区立谷端小学校 墨田区立隅田小学校、目黒区立鷹番小学校 練馬区立北町小学校、稲城市立稲城第一小学校 多摩市立第三小学校、多摩市立多摩中学校 八王子市立椚田小学校、府中市立住吉小学校 府中市立府中第九小学校
中部	愛知県	一宮市立朝日東小学校、一宮市立大和南小学校 豊橋市立大崎小学校、名古屋市立相生小学校 名古屋市立栄生小学校、名古屋市立明倫小学校 春日井市立篠原小学校
	岐阜県	揖斐川町立大和小学校、多治見市立北栄小学校 神戸町立下宮小学校
	三重県	津市立櫛形小学校、桑名市立多度東小学校 菰野町立竹永小学校、津市立高宮小学校 桑名市立藤が丘小学校、津市立北立誠小学校 松阪市立天白小学校

地域	都道府県	小･中学校名
中部	富山県	富山市立水橋西部小学校
	石川県	金沢市立三馬小学校
近畿	大阪府	大阪市立生野小学校、大阪市立西生野小学校 大阪府立和泉支援学校中学部、大阪市立瓜破北小学校 大阪市立九条南小学校、大阪市立清水小学校 大阪市立湯里小学校、大阪市立池島小学校 吹田市立千里第二小学校、富田林市立大伴小学校 東大阪市立鴻池東小学校、太子町立山田小学校 八尾市立曙川東小学校、大和高田市立高田小学校 高槻市立安岡寺小学校、豊中市立西丘小学校 箕面市立止々呂美小学校、和泉市立北池田小学校
	和歌山県	御坊市立御坊小学校
	奈良県	香芝市立下田小学校、平群町立平群東小学校 平群町立平群南小学校
	滋賀県	甲賀市立朝宮小学校、甲賀市立多羅尾小学校 日野町立桜谷小学校、甲賀市立土山小学校 甲賀市立雲井小学校
	京都府	向日市立第4向陽小学校、八幡市立美濃山小学校 城陽市立古川小学校、長岡京市立神足小学校
	兵庫県	神戸市立有瀬小学校、神戸市立糀台小学校 宍粟市立山崎小学校、伊丹市立鴻池小学校 川辺郡猪名川町立楊津小学校、尼崎市立大庄北中学校 養父市立養父中学校
中国	広島県	尾道市立日比崎小学校、江田島市立中町小学校 広島市立早稲田小学校、府中町立府中小学校 広島市立神崎小学校
	島根県	出雲市立大社小学校、邑南町立石見東小学校
四国	徳島県	阿南市立新野小学校
九州	福岡県	飯塚市立飯塚東小学校、久留米市立高良内小学校

P34 見学可能な工場･歴史館の連絡先

雪印メグミルク（株）　酪農と乳の歴史館
〒065-0043　北海道札幌市東区苗穂町6-1-1
TEL：011-704-2329

雪印メグミルク（株）　札幌工場
〒065-0043　北海道札幌市東区苗穂町6-1-1
TEL：011-704-2329
（受付は雪印メグミルク（株）酪農と乳の歴史館で行なっています。）

雪印メグミルク（株）　大樹工場
〒089-2155　北海道広尾郡大樹町緑町35
TEL：01558-6-2121

みちのくミルク（株）　本社工場
〒989-6412　宮城県大崎市岩出山下野目字八幡前60-1
TEL：0229-72-2011

雪印メグミルク（株）　野田工場
〒278-0013　千葉県野田市上三ヶ尾字平井256-1
TEL：04-7122-2246

雪印メグミルク（株）　横浜チーズ工場
〒226-0012　神奈川県横浜市緑区上山1-15-1
TEL：045-933-7202

雪印メグミルク（株）　豊橋工場
〒441-0105　愛知県豊川市伊奈町南山新田350番地79
TEL：0533-78-3711

雪印メグミルク（株）　京都工場
〒629-0161　京都府南丹市八木町美里紫野1番地
TEL：0771-43-2150

雪印メグミルク（株）　京都工場　池上製造所
〒629-0112　京都府南丹市八木町池上古里1番1
TEL：0771-42-6871

雪印メグミルク（株）　神戸工場
〒651-2124　兵庫県神戸市西区伊川谷町潤和824-1
TEL：078-912-2121

●工場･歴史館の見学のご案内
工場･歴史館の見学をご希望の場合は、お手数ですが、あらかじめ各工場･歴史館にお電話でご予約願います。

●工場見学を一部工場のみとした理由について
見学ができない一部工場は、見学施設体制が十分に整っていない現状にあります。そのため衛生管理の観点から、工場見学を控えさせていただいています。

P37 人事データ

社員の状況　（2011年3月31日現在）

	日本ミルクコミュニティ（株）	雪印乳業（株）
社員数（連結）	2,379	2,610
社員数	1,826	1,725
男性	1,626	1,472
女性	200	253
女性管理職	2	6
女性管理職比率	0.47%	1.69%
平均年齢（歳）	41.0	40.0
平均勤続年数（年）	7.2	17.4
障がい者雇用	49	45
障がい者雇用率	1.95%	1.86%
育児休職利用者	6	17
内育児休職男性社員利用者	0	4
子育て支援休暇利用者	―	18
のべ人数	―	45
看護休暇制度利用者	15	31
のべ人数	70	141
短時間勤務制度利用者	2	11
のべ人数	4	18

※「社員数」は「出向者を含む全社員」を対象にしています。

P39 先天性代謝異常症用特殊粉乳の提供

雪印メグミルク（株）が製造･供給している医薬品2品と登録特殊ミルク7品

	品名	対象患者	2010年度 年間出荷量（概算kg）
医薬品	フェニルアラニン除去ミルク配合散「雪印」	フェニルケトン尿症	18,150
	ロイシン･イソロイシン･バリン除去ミルク配合散「雪印」	メープルシロップ尿症	1,500
登録品	雪印フェニルアラニン無添加総合アミノ酸粉末（A-1）	フェニルケトン尿症	520
	雪印メチオニン除去粉乳（S-26）	ホモシスチン尿症	1,020
	雪印フェニルアラニン･チロシン除去粉乳（S-1）	チロシン血症	180
	雪印蛋白除去粉乳（S-23）	高アンモニア血症、他	2,150
	雪印イソロイシン･バリン･メチオニン･スレオニン除去粉乳（S-10）	メチルマロン酸血症	350
	雪印イソロイシン･バリン･メチオニン･スレオニン･グリシン除去粉乳（S-22）	プロピオン酸血症	1,870
	雪印リジン･トリプトファン除去粉乳（S-30）	グルタル酸血症I型	350

ステークホルダーからのメッセージ

**ステークホルダーの方々から雪印メグミルクグループの取り組みへのご意見･評価と
これからの期待についてメッセージをいただきました。**

近畿生乳販売農業
協同組合連合会
代表理事会長
倉橋 準典 様

この度の新生雪印メグミルク（株）の誕生、心からお慶び申し上げます。また、東日本大震災では御社でも大きな被害を受けられたとお聞きしますが、多くの被災された方々には一日も早い復旧･復興をお祈りしますとともに被災を免れた我々は出来る限りの支援をして行きたいと考えております。私のように畜産学を学んだ者は、雪印というと創設の祖である黒澤酉蔵氏を直ちに思い浮かべますが、氏が雪印の前身である北海道製酪販売組合を設立されたのは関東大震災や乳製品の関税自由化が契機であったことを考え合わせると時代展開の不思議を感じます。

しかし、当時と現在の大きな相違点は、牛乳･乳製品が国民の基礎的食糧として大きな地位を占めており、酪農･乳業の新鮮で安全･安心な製品の供給責任が格段に増大していることです。この様な時、新生雪印メグミルクの使命として「乳にこだわる、酪農生産への貢献、消費者重視」のグループメッセージは我々酪農生産者にとっても心強いメッセージとして届きました。酪農経営を巡っては、大震災だけではなく世界的な穀物･原油の高騰や闇雲なTPP参加問題など大きな不安を抱えております。

しかし、「健土健民」の理念に立ち返り「健やかな酪農」を目指すことも重要であると考えます。今後とも生･処が手を携えて消費者に信頼される牛乳･乳製品の提供に邁進して行きましょう。

全国メグミルク
協議会 会長
北川 忠男 様

我々牛乳販売店をとりまく経営環境は、長期間にわたるデフレ環境下で大変厳しい状況が続いておりました。そのような中、東日本大震災により直接的･間接的影響を受けた販売店も多く、益々厳しくなっている状況です。

一方、事業機会に目を向けると、少子高齢化の進展に伴い様々な宅配サービスの社会的価値が注目され市場が活性化するなど、大きなチャンスを秘めているとも言えます。現に、2月の日本経済新聞掲載を始め各種テレビ番組で牛乳販売店の宅配サービスが特集されるなど、雪印メグミルク（株）の商品や牛乳販売店の宅配サービスは今後益々注目され、その社会的価値や社会的重要性も更に高まっていくものと思われます。

雪印メグミルクグループには、そのような中で我々牛乳販売店が担いうる社会的な役割を再認識いただき、より社会的貢献度の高い商品やサービスを開発･推進されることを期待しています。また、総合乳業メーカーとして市乳･乳製品事業の相乗効果･強みを生かし存在感を更に強固なものにしていただきたいと考えております。もちろん我々も組織の力を結集し、御社との強力なパートナーシップの下、努力して参る所存です。

日本紙パック株式会社
CSR･環境部 部長
辻井 芳彦 様

私ども日本紙パック（株）は、飲料用紙容器･充填機のサプライヤーとして、食の安全･安心を確保するための品質保証、また、紙パックに関わる環境保全のための活動などにおいて貴社と協働させていただいています。

品質保証については、弊社での品質･衛生管理体制に加え、貴社からの『品質管理活動状況調査表』によるセルフチェック、監査（工場視察、ヒアリング、文書･記録等の確認）などを実施いただき、現状を確認し、ご指摘事項に基づき改善に努めています。

また、紙パックに関わる環境保全については、全国の乳業メーカーや飲料用紙容器メーカーなどが会員の全国牛乳容器環境協議会のメンバーとして、出前授業、牛乳パックリサイクル講習会、牛乳パックリサイクル促進地域会議やエコプロダクツへの参加などを通して、紙パックの環境に関する情報提供や使用済み紙パックの回収率向上を図るなどの活動を共に推進しています。今後も継続的改善を図るため、引き続き弊社との協働体制の維持･推進をお願い致します。

元東京都総合防災部
情報統括担当課長
齋藤 實（みのる） 様

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、いつでも電気が使用できる、携帯電話も通じる、スーパーの店頭では商品が並んでいる、といったこれまで当然のように思われたことが、一瞬のうちにできなくなりました。
企業は、お客様に対して商品の供給やサービスを提供し、その対価としてお金をいただく一方、お客様は必要な商品やサービスに対して、その対価としてのお金を支払っています。こうした相互の信頼関係を継続していくことの大切さを、改めて痛感させられました。日本は、地震、洪水、火山などの自然災害の多い国です。いつ、どのような事態が発生しても、自社の商品やサービスを安定的に提供し続けていくこと、この重要性を再認識し、全社員あげて実現していただきたいと思っています。
「企業活動を継続させること」、この当たり前のことが、企業における最大の社会貢献であると考えています。

企業倫理委員会
表示部会 委員
消費生活アナリスト
板倉 ゆか子 様

食品企業を集めたある食の安全・安心セミナーで、雪印メグミルク（株）から発表のあった消費者重視経営の取組みの内容には、事実に裏付けされた説得力があり、主催者の評価も高いものでした。その姿勢は、表示部会の場面でも感じられます。雪印乳業食中毒事件から10年を過ぎても、その反省を形骸化させず、謙虚に会社や商品のあるべき姿を求めて、外部の意見にも真摯に向き合ってくださると思えるからこそ、歯に衣着せぬ発言も出来ます。
合併新会社がスタートしました。一度事件を起こした企業は、外部からは、常に厳しい目でみられます。それを自覚した上で、他社からこられた社員にも消費者重視の姿勢が十分に浸透し、企業風土がうまく融合することで、消費者重視経営の模範企業としてさらに力をつけていかれることを切に願い、応援したいと思っています。

杉並くらしの情報
プロジェクト代表
田之江 美千代 様

日本ミルクコミュニティ（株）と雪印乳業（株）は経営統合、合併を経て、「雪印メグミルク（株）」となり新しいブランドに生まれ変わりました。「消費者重視経営の実践」がCSRの大きな柱の一つとして掲げられており、企業が向いている方向を明確に示しています。今、消費者は、「食」への関心が高く、「おいしい」だけでなく「安全であること」に大変敏感になっています。その背景には、企業不祥事だけでなく、原料が生産される環境への不安、「食」に関する情報が十分に読み解けないことへの不安などもあります。生産者と消費者をつなぎ、それぞれに確かな情報を伝えることが雪印メグミルク（株）の役割であり、それには「対話」が重要と考えます。「対話」によって、相互に「顔」の見えるような関係を構築し、情報だけでなく対話で得た学びや気づきを共有することが「安全・安心」への手がかりになるでしょう。新たな視点と行動によってメッセージ「未来はミルクの中にある。」が実感される事業運営を期待しています。

雪印メグミルクグループの「活動報告書2011」へのご意見・ご感想をお聞かせください。

雪印メグミルクグループの「活動報告書2011」をご覧いただき、ありがとうございました。本報告書についてのご意見・ご感想などをお聞かせください。今後の雪印メグミルクグループの企業活動や報告書作成に反映していきたいと考えております。お手数ですが、アンケート用紙にご記入の上、お送りいただきますようお願い申し上げます。

本誌をご希望の方は、雪印メグミルク（株）フリーダイヤルへご連絡願います。
●雪印メグミルク お客様センター　0120-301-369（9:00～19:00年中無休）

雪印メグミルク（株）ホームページでも、本報告書を公開しております。
●「社会的責任への取り組み」http://www.meg-snow.com/csr/report

未来は、ミルクの中にある。

雪印メグミルク

この報告書は、古紙のリサイクルに取り組むオフィス町内会と、森林の再生に取り組む岩手県岩泉町との連携により実現した「森の町内会ー間伐に寄与した紙ー」を本文用紙に使用しています。
インクは「100%植物油のインク」を使用し、印刷は印刷工程で有害廃液を出さない「水なし印刷」で行なっています。

未来が変わる。日本が変える。チャレンジ25

COLOR UNIVERSAL DESIGN

Waterless Printing Naturally

Vegetable oil INK for waterless printing Non VOC INK Version 2

森の町内会 間伐に寄与した紙 www.mori-cho.org

2011年6月発行